



西播磨地域ビジョン 2050

～光と水と緑でつなぐ 元気西播磨～

みんなをめざしたい西播磨地域の 4つの将来像と取組目標16

将来像1 「つながる地域のきずな西播磨」

1 地域みんなで子育てを
応援しよう

2 次代を担う人材を
育てよう

3 ほどよいおせっかいで
縁を結ぼう

4 あらゆる多様性を
尊重しよう

将来像2 「元気な西播磨」

5 自慢したい地域の
資源を守り活かそう

6 戻りたい・住み続け
たい地域にしよう

7 自分らしく活躍できる
地域をめざそう

8 地域とともに成長する
産業を育てよう

将来像3 「自立の西播磨」

9 自然と共生しよう

10 地産地消を進めよう

11 遊休資源を知恵と
工夫で活かそう

12 より輝く播磨科学
公園都市をつくらう

将来像4 「安全安心の西播磨」

13 いきいきと暮らせる
地域をつくらう

14 移動に困らない
地域をめざそう

15 健康・福祉が充実
した地域をめざそう

16 防災力を高めよう

2050年の西播磨の暮らしのイメージ

みんなでめざしたい西播磨の姿をイメージしやすいように、30年後の地域の暮らしの一例を紹介します。



～ 夫婦共働きで子育て中 ～

西播磨は安心して子どもを産み育てられる地域だね

二人とも西播磨で育ち、学生時代に知り合った妻と結婚、新居は地元で構えることにしました。決め手になったのは、豊かな自然を活かした教育環境と、温かい人が多い土地柄です。

西播磨は性別にかかわらず子育てしやすい就業環境なので、子どもが生まれた時は夫婦で育児休暇を取得しました。学校行事や子どもが病気の時などは、フレックス勤務やテレワークなどを利用しています。また、妻の両親が温かく見守ってくれ、ご近所の方も何かと助けてくれるので、安心して子育てと仕事の両立ができています。

学校では地域とも連携した西播磨ならではの体験学習などもあって、子どもも毎日楽しそうに学校に通っています。地域の歴史や食文化などにも触れ、地元への愛着や誇りも自然と育まれているようで、親としても頼もしく思っています。



～ 大学卒業を機にUターン ～

ふるさとへの誇りと愛着があるので
地元で就職し地域にも貢献したい

東京で就職する選択肢もありましたが、子どもの頃の体験などを通してふるさとへの誇りと愛着があるので、地元で就職し地域に貢献したいと思っています。地域産業が活力を取り戻し雇用環境が整っていることもUターンを決めた理由の一つです。

地域活動にも積極的にに関わり、今度は自分が地域の担い手としてがんばりたいと思っています。

また、地元をいったん離れて気がついたことですが、自然豊かな暮らしや農林水産業に興味を持つ人が増えているので、西播磨に来てくれる人が増えるように、仲間と一緒に地域の魅力をどんどん外へ発信していきたいと思っています。



～ 西播磨に移住し起業就農 ～

西播磨の魅力に惹かれ移住して就農
農業で地域を盛り上げられたら

農業に興味があり、10年前に大阪からIターン就農しました。西播磨の景観と温かく受け入れてくれる地域の方々の人柄に惹かれ、この地に移住を決めました。

今では、学校給食をはじめ家庭や地域において食の地産地消が進み、生産・流通・消費が拡大し、新たな担い手も生まれ農林水産業が再び盛んになって地域の産業をリードしています。そんな仕事に携われて大変やりがいを感じています。

農林水産業にチャレンジする若者も増え、一緒になって地域の賑わいづくりにも取り組んでいます。

また、放棄林の再生や木材の地産地消も進んで、良好な地元材を使った家づくりも人気となっています。間伐や廃材からできる木チップはバイオマス発電に使われるなどエネルギー自給100%を達成し、脱炭素社会にも貢献しています。



～ 長年西播磨に居住 ～

これからも地域でともに支え合う誰もが
安心して暮らせる地域がいいね

長年住んでいる地域のために何かしたいと思い、二人で一緒に介護や日常生活支援ボランティアを始め、充実した毎日を送っています。

私の地域では、性別や年齢等にかかわらず誰もが地域を支える担い手として様々な活動に参加し、お互いに助け合いながらみんなが生き生きと暮らしています。

医療技術やドローンなどを活用した輸送技術が発達し、また自動運転などのいろんな移動サービスも充実しているので、買い物や通院など移動に困ることなく住み慣れた地域で安心して生活ができています。

また、この地域では豊かな自然環境が再生され災害に強い森づくりが進んでいます。共助による地域防災体制も整っているので、いざというときも安心です。

目 次

I	策定の趣旨等	P 4
II	県民意見から見る西播磨地域の現状と課題	P 5
III	基本理念（めざす姿）	P 19
IV	西播磨地域の将来像と取組目標	P 19
	（参考）現行ビジョンがめざす将来像の実現状況	P 53



この冊子に使用しているピクトグラムの制作に携わった兵庫県立龍野北高等学校
総合デザイン科3年生の生徒たち

I 策定の趣旨等

1 ビジョンとは

ビジョンとは、達成する目標を掲げ、そのために実施すべき行政施策や事業の総量を示す行政主導型の「計画」ではなく、住民自らが望ましい地域の「将来像や夢」を描き、多様な主体が共有し、その将来像の実現に向けて取り組んでいく指針となるものです。

2 新地域ビジョンの策定の趣旨

30年後の西播磨地域のめざす将来像を示した現行の西播磨地域ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過し、この間、社会情勢が大きく変化し続けています。

このため、西播磨地域を取り巻く環境変化や社会潮流、時代の変化とともに顕著になってきた地域の課題を踏まえながら、県民の意見をもとに、2050年を展望した新地域ビジョンを策定しました。

3 新地域ビジョンは西播磨みんなの目標

この新地域ビジョンは、県民意見をもとに、皆さんが共感できる地域の将来像とそれを実現するための取組の方向性として、4つの将来像と16の取組目標を描きました。

16の取組目標は、より良い西播磨地域をつかっていくために取り組んでいく西播磨みんなの目標です。

4 ビジョン実現に向けた取組

西播磨地域は、人口減少や少子高齢化、若者の流出による地域や産業の活力の低下、担い手不足、空き家の増加、気候変動による自然災害の増加など、さまざまな課題に直面しています。

人口が減っても活力を保ち、豊かに暮らし続けられる地域を守っていくため、さまざまな課題の解決に向けて一人ひとりが行動していくことが大切です。

このビジョンを地域住民・事業者・関係団体・行政等の多様な主体が共有し、将来像の実現に向けてそれぞれの主体が共に考え、協力して取り組みを進めていきましょう。

西播磨地域：人口24.7万人*、面積1,567km²
構成市町：相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、
太子町、上郡町、佐用町

*令和2年国勢調査

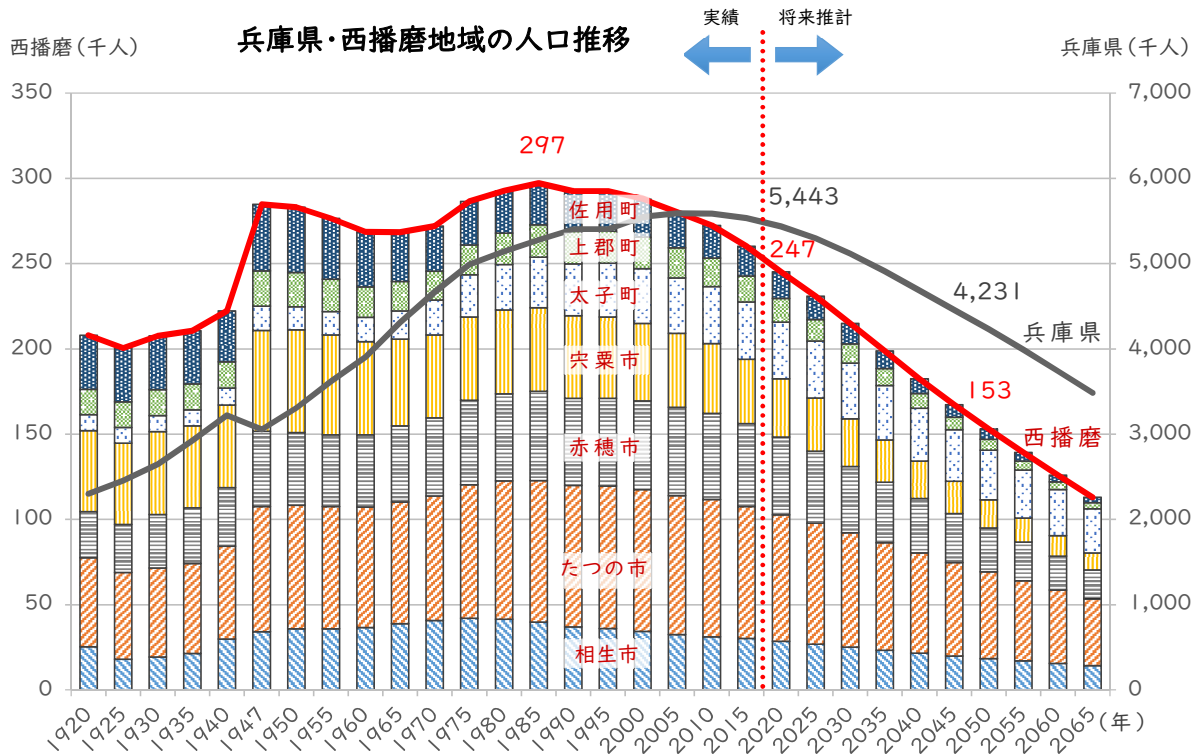


II 県民意見から見る西播磨地域の現状と課題

西播磨地域を取り巻く環境変化や社会潮流、時代の変化とともに顕著になってきた地域の課題について、県民の皆さんの意見を踏まえながら次のとおり整理しました。

I 減り続ける人口

- ・西播磨の人口は、1985年の297千人をピークに減少局面に突入
- ・2020年の247千人から2050年には153千人まで減少する見込み（2020年比38%減）



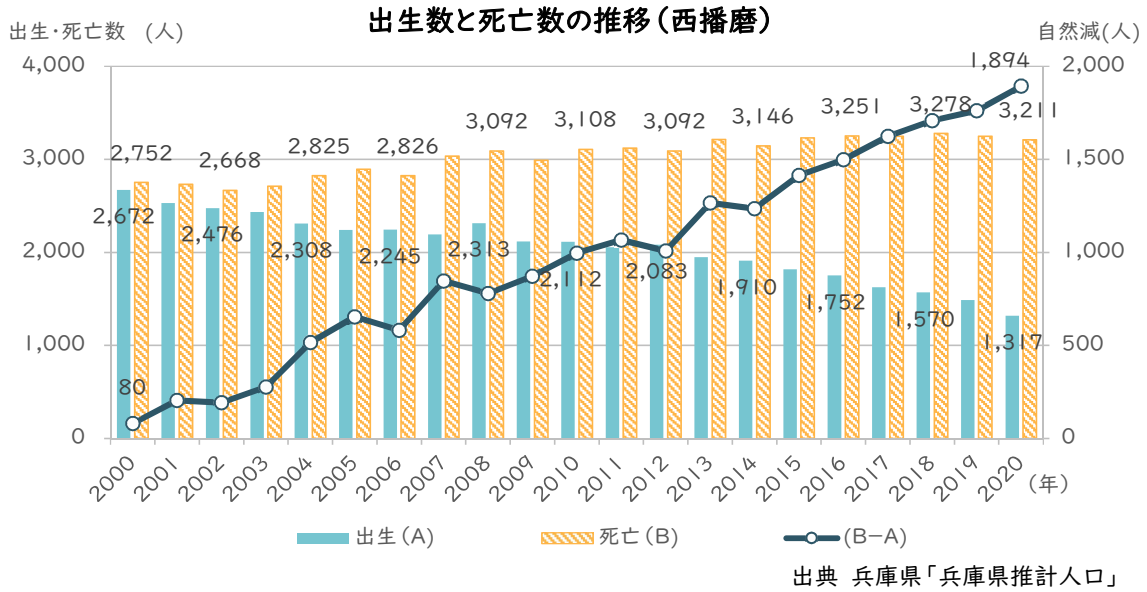
西播磨地域の人口推計(2020年→2050年)

	2020年			2050年			増減率(%)		
	人口(千人)	年齢別シェア(%)		人口(千人)	年齢別シェア(%)				
		14歳以下	15~64歳	65歳以上		14歳以下	15~64歳	65歳以上	
西播磨	247	12	54	34	153	10	45	45	△38
相生市	29	11	52	37	18	11	47	42	△36
たつの市	74	13	56	31	51	10	49	41	△32
赤穂市	45	11	55	34	26	8	41	51	△43
宍粟市	34	12	52	36	16	7	39	54	△52
太子町	34	15	58	27	29	13	52	35	△13
上郡町	14	10	50	40	6	6	37	57	△55
佐用町	16	9	47	44	6	4	26	70	△61
兵庫県	5,443	12	58	30	4,231	10	50	40	△22

出典 総務省「国勢調査」(1920~2015)、兵庫県「兵庫県推計人口」(2020)、ビジョン課推計(2025~2065)

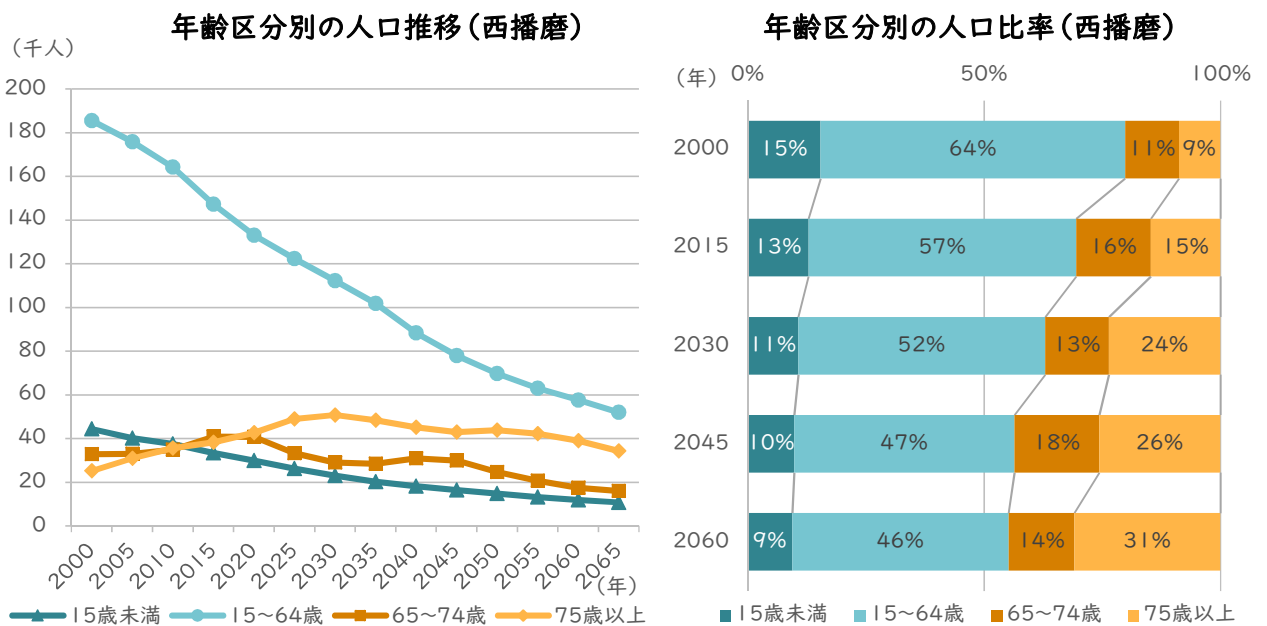
2 減り続ける子ども

- ・合計特殊出生率（1人の女性が生涯に生む子ども数に相当）は1.5前後で推移し、人口維持に必要な水準2.07を大きく下回る（2015年：西播磨1.50、兵庫県1.48）
- ・出生数は2000年の2,672人から減少傾向が続き、2020年には1,317人まで減少（2000年比51%減）
- ・未婚化等で出生数が減少し、自然減が拡大（2000年：80人減→2020年：1,894人減）



3 人口の高齢化と伸びる寿命

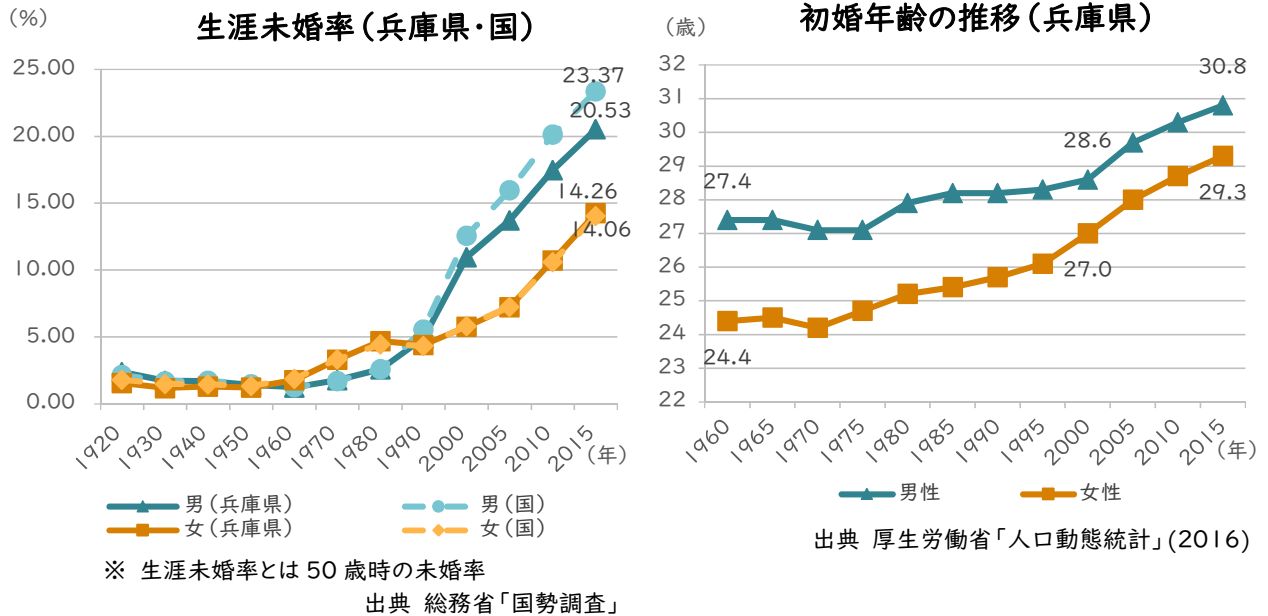
- ・2045年には高齢化率44%（2015年：31%）、75歳以上が人口の4分の1を上回る
- ・県民の平均寿命は過去20年間で男性5.4歳、女性5.2歳伸長
- ・医療技術の進展や健康志向の高まりで寿命はさらに伸びると見込まれ、人口のますます多くを高齢者が占める



出典 総務省「国勢調査」(~2015)、兵庫県ビジョン課推計(2020~2065)

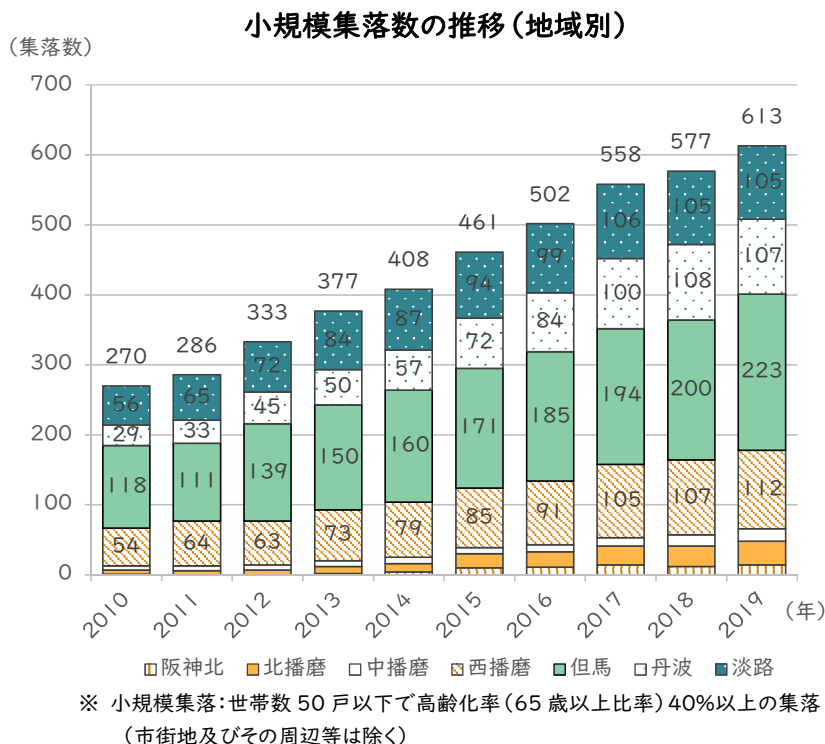
4 未婚者の増加

- ・1990年以降、生涯未婚者が増え、出生数がさらに低下
- ・婚活のための若い人の交流の場や、子どもの頃から意識改革を促していくことも必要



5 増加する小規模集落と人口の偏在化

- ・管内の小規模集落数は、2019年112集落で、この10年で約2.1倍に増加
- ・同一市町内でも地域によって高齢化や若年層の流出差が顕著になって過疎化が進行



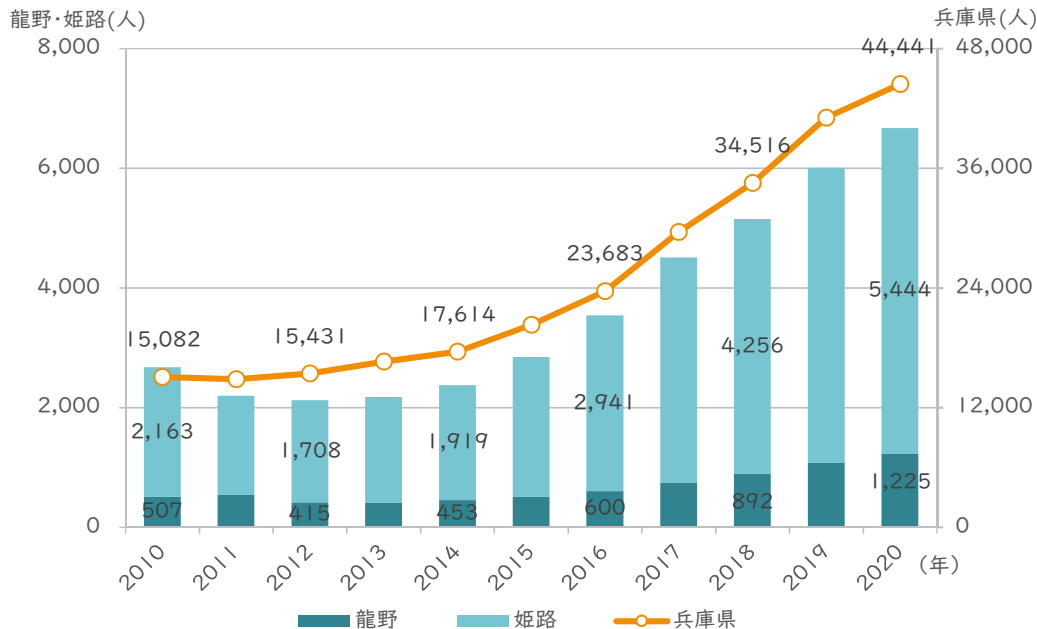
6 地域のコミュニティ機能の低下

- ・自治会をはじめ各種地域団体（婦人会、老人会、ボランティア団体など）への加入率低下や人材不足による組織の弱体化、解散による地域のコミュニティ機能の低下
- ・ご近所付き合いや近隣同士のコミュニケーション機会の減少、地域活動に無関心な者の増加、世代間交流の減少
- ・地域づくりを担う人材の不足や参加者の減少により、祭りや食など伝統文化の継承が困難
- ・子どもの減少や学校統廃合等により、地域が子どもと関わる機会が減少し、地域が子どもの社会性を養う場としての機能が低下

7 増える外国人、多文化との共生

- ・2020年の外国人人口は、2013年と比較すると約1.5倍に増加
- ・外国人労働者もこの10年で約2.5倍に増加
- ・県民意識調査の「外国人を見かけたり接する機会が増えていると感じる人の割合」はこの8年で約3.6倍に増加している一方、「外国人が住みやすいまちになっていると感じる人の割合」は低下傾向
- ＊県民意識調査「外国人を見かけたり接する機会が増えていると感じる人の割合」
(2013年:7.5%→2021年:27.3%)
- ＊県民意識調査「外国人が住みやすいまちになっていると感じる人の割合」
(2013年:18.6% →2021年:13.1%)
- ・外国人支援ボランティアや在留外国人と地域との交流機会の減少

外国人労働者数の推移（龍野・姫路ハローワーク管内）

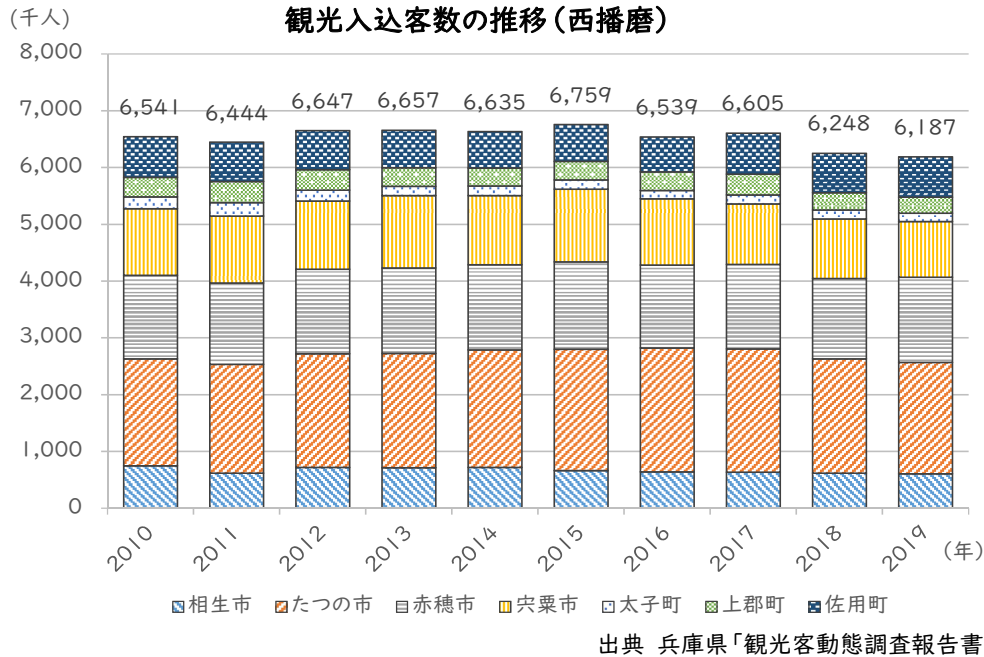


龍野：龍野公共職業安定所(相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、上郡町、佐用町、姫路市安富町)
 姫路：姫路公共職業安定所(太子町、姫路市(安富町除く)、神崎郡)

出典 兵庫労働局「外国人雇用状況の届出状況」

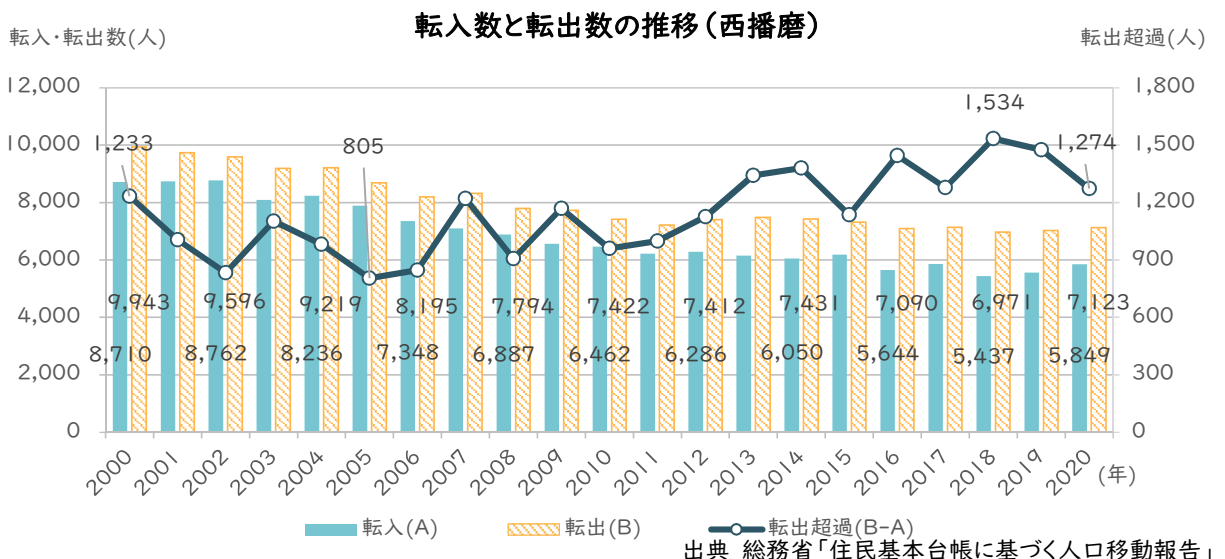
8 地域資源を活用した交流人口・関係人口の拡大

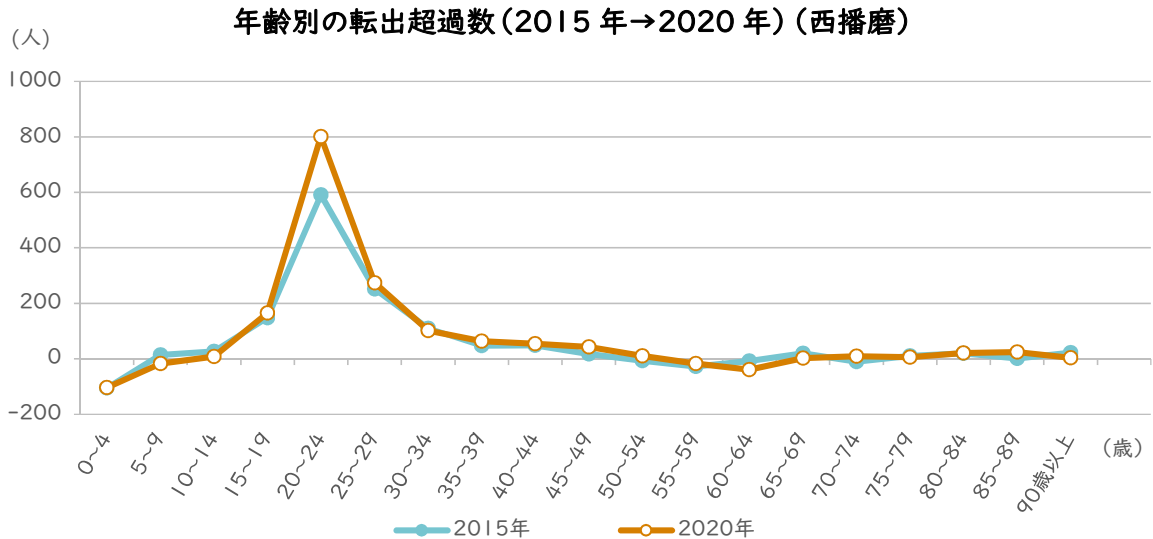
- ・西播磨地域は、森川海など自然に恵まれた地域であるとともに、歴史文化遺産など観光資源が豊富
- ・2019年度の観光入込客数は6,187千人で、対2010年度比5.4%減少
- ・形態別では日帰り客の割合が9割
- ・地域の活力を維持するためにも、管内に数多く存在する地域の歴史・自然資源等を生かした域外からの誘客等交流人口・関係人口の拡大の取り組みが必要



9 若者の転出

- ・2000年以降、転出超過が継続(2020年:1,274人の転出超過)
- ・就職・進学・結婚期にあたる15~29歳の転出超過割合が大きく、全体の97%(15歳~29歳合計:1,240人(15歳~19歳:165人、20~24歳:801人、25~29歳:274人))
- ・都市部への憧れや高い生活利便性の希求、結婚後の地元定着の減少、大学が通学圏内がない、地元で就職の場が少ない、就職に対する価値観の変化などにより若者が流出し、担い手不足により地域力が低下



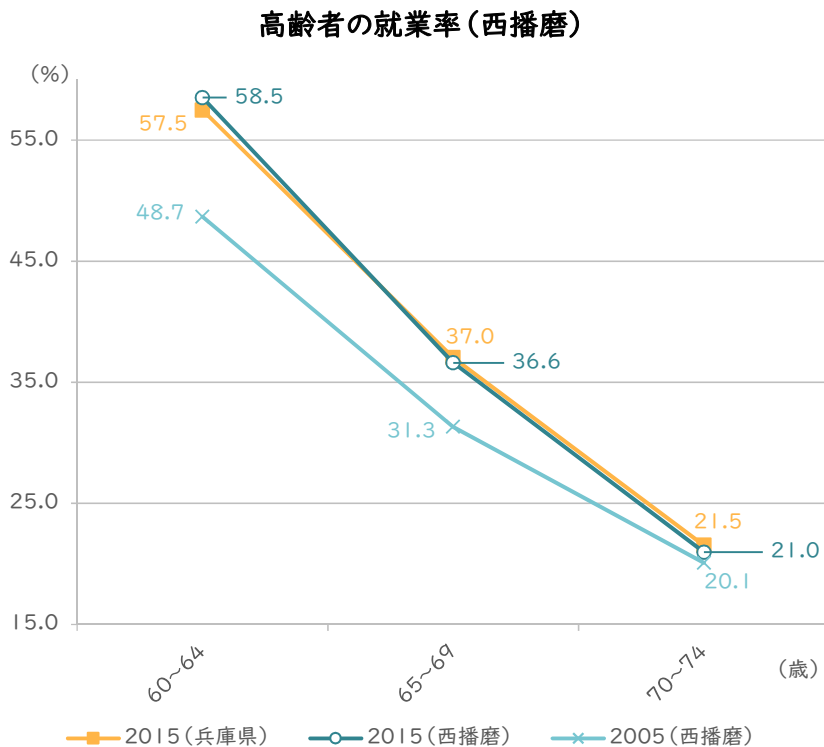


出典 総務省「住民基本台帳に基づく人口移動報告」

10 多様な働き方の創出・人材の活用

① 高齢者の就業

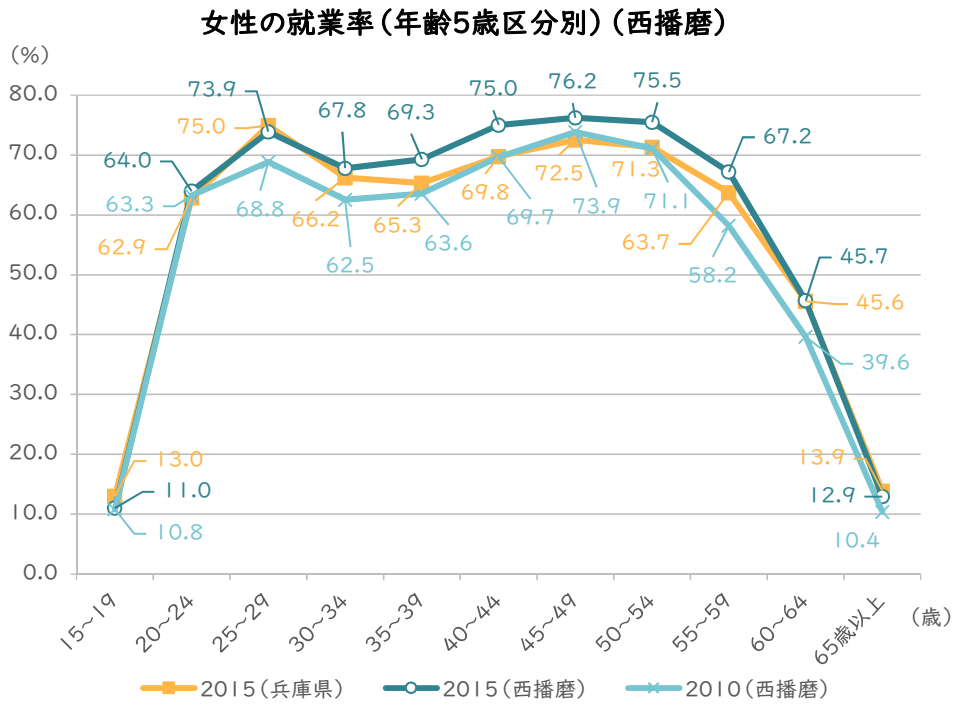
- ・60歳以上の就業率は2005年以降上昇しており、60~64歳では58.5%、65~69歳では36.6%、70~74歳では21.0%が就業
- ・高齢者の体力は、15年で5歳程度若返り
- ・人生100年時代を迎え元気な高齢者が増加していくことから、経済的な就業の場とともに、生きがいづくりの場などの確保も必要



出典 総務省「国勢調査」

② 女性の就業

- ・2015年の女性の就業率は、2010年と比べて西播磨平均で1.5%上昇
- ・依然として30代の就業率が低下する傾向は続いており、就業継続のための環境づくりが必要
- ・一方、働く女性の増加により地域活動に関わる機会が減少

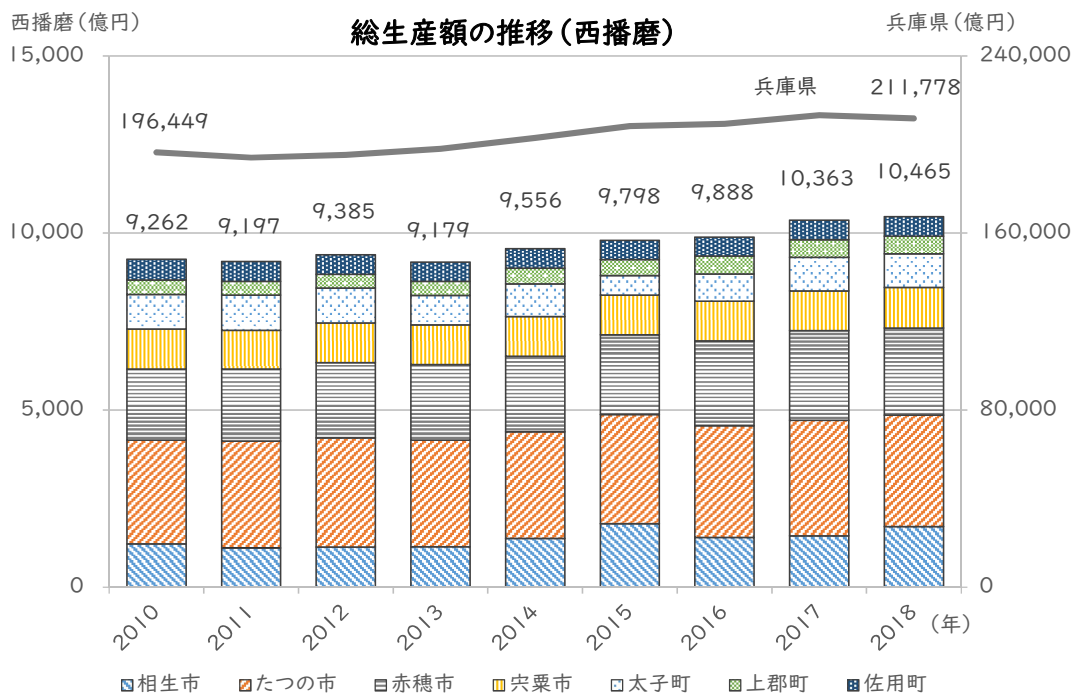


出典 総務省「国勢調査」

II 地域産業の活性化

① 総生産額

- ・2018年度の管内総生産額は1兆465億円で、経年で見ると緩やかに上昇傾向

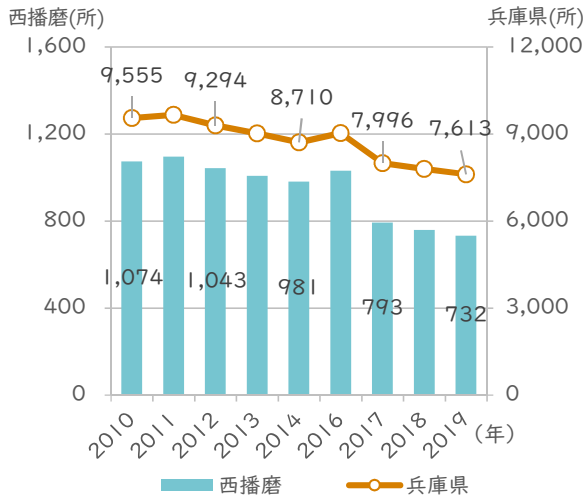


出典 兵庫県「市町民経済計算」

② 製造業

- ・2019年の事業所数は732事業所で、2010年と比べて32%減少
- ・一方、2019年の製造品出荷額は1兆942億円で、2010年と比べて18%増加
- ・地元以外の手企業就職傾向や高卒の生産技能職希望者の減少により、若手労働力の確保が困難

事業所数の推移(西播磨)



製造品出荷額の推移(西播磨)

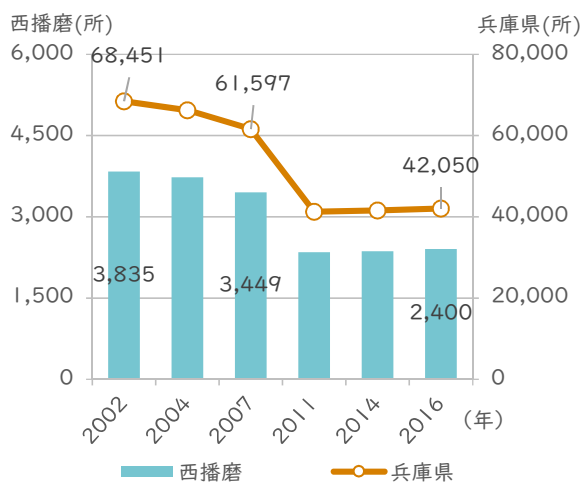


出典 兵庫県「工業統計調査」

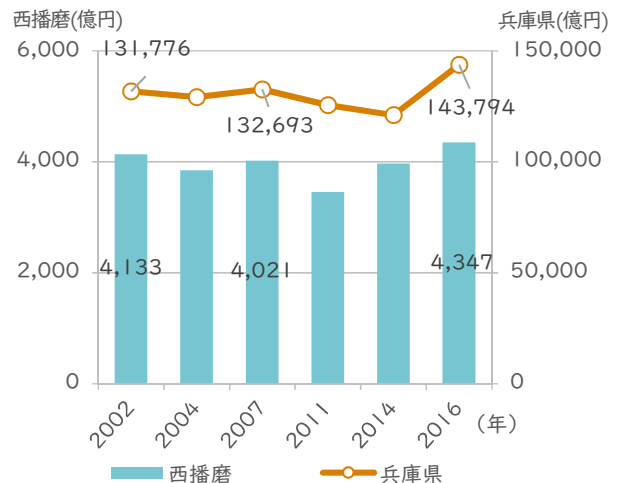
③ 商業

- ・2016年の事業所数は2,400事業所で、2002年と比べて37%減少
- ・一方、2016年の年間商品販売額4,347億円は、2002年と比べて5%増加
- ・事業主の高齢化や後継者不足、コンビニの増加や大型店舗進出、地元での消費低下による小規模事業者の減少・廃業
- ・商店街の衰退により、地域住民のふれあう機会が減少

事業所数の推移(西播磨)



年間商品販売額の推移(西播磨)

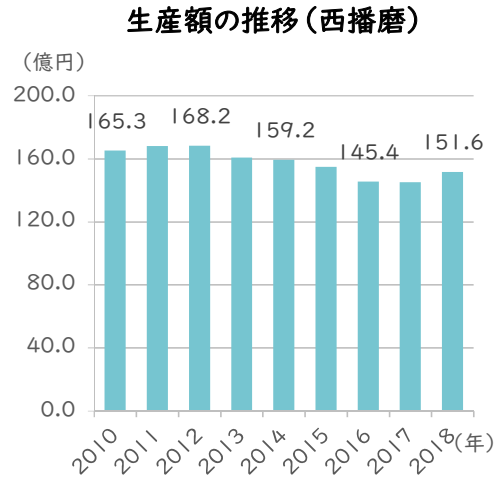
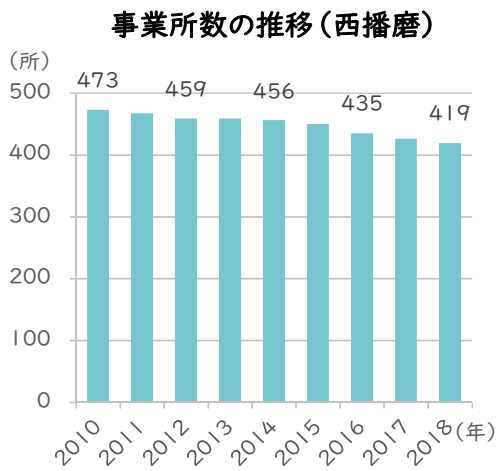


出典 兵庫県「商業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス」

④ 地場産業

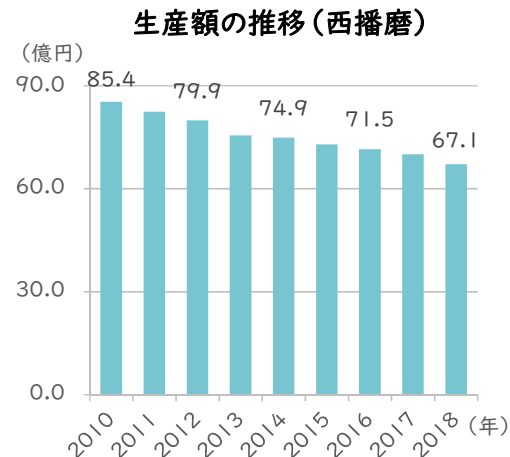
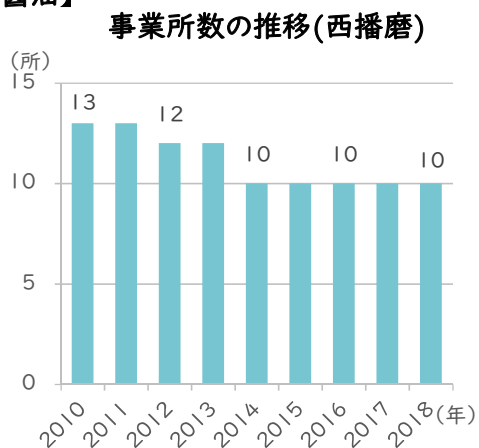
- ・手延素麺、醤油、皮革の事業所数及び生産額は、2010年以降ともに減少傾向
- ・後継者不足が深刻化し、若者が継続して働ける環境づくりが必要

【手延素麺】



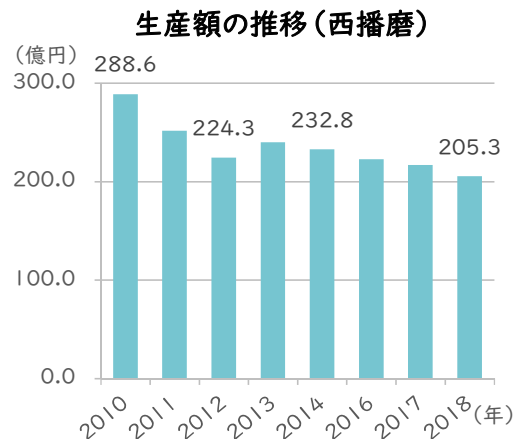
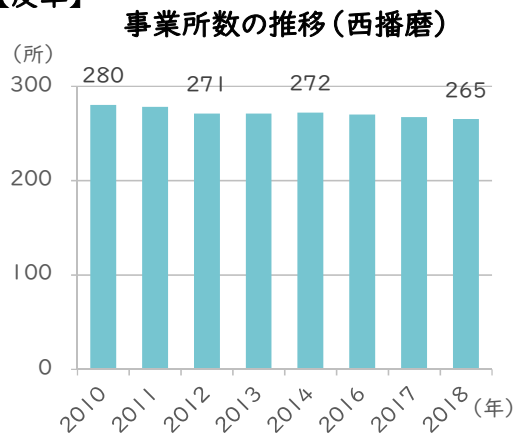
出典 兵庫県工業振興課

【醤油】



出典 兵庫県工業振興課

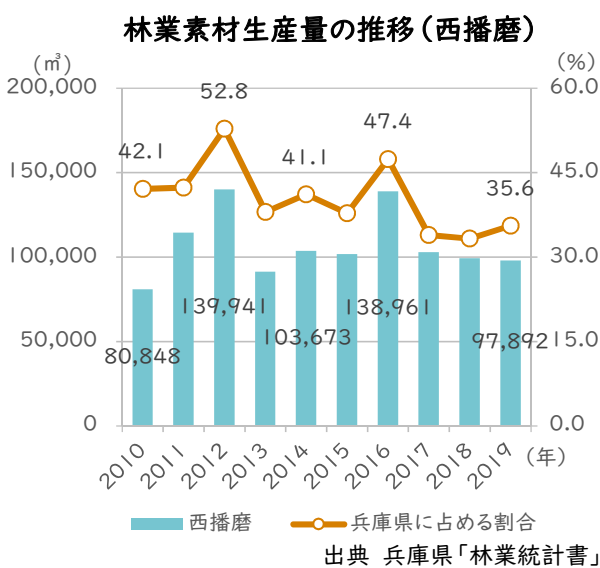
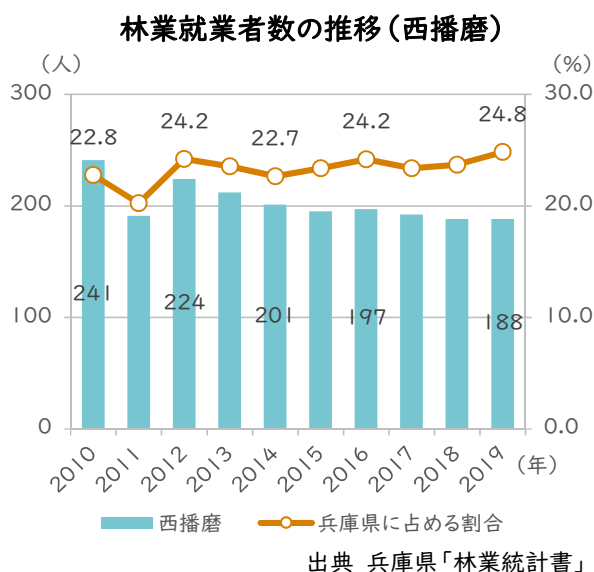
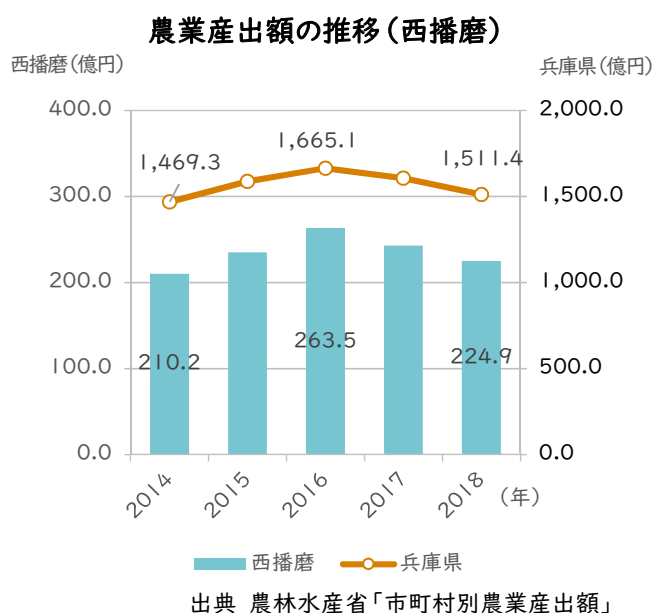
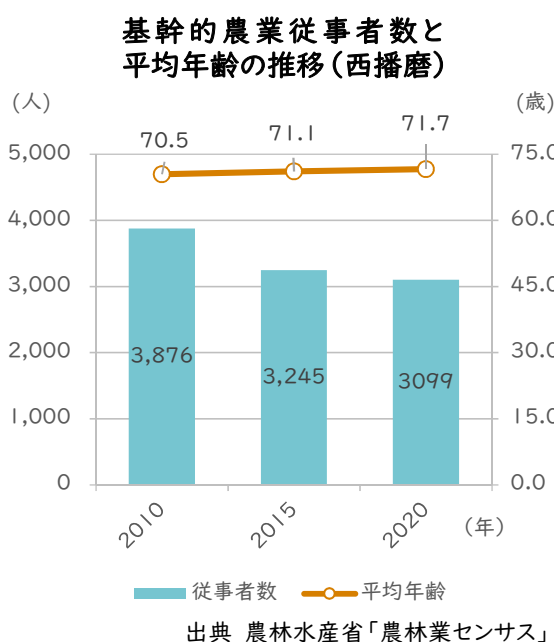
【皮革】



出典 兵庫県「工業統計調査」

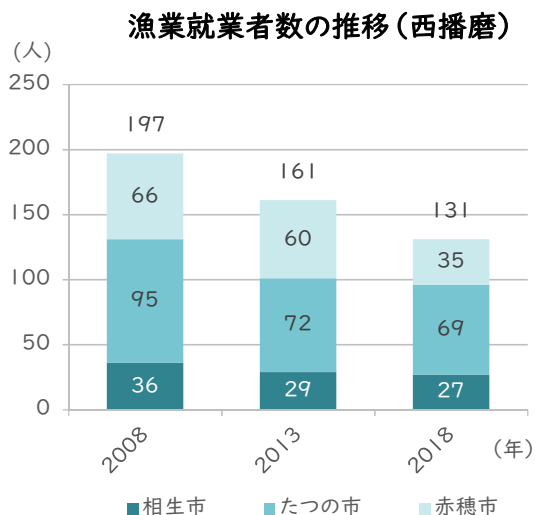
⑤ 農林業

- ・2020年の基幹的農業従事者は3,099人で、2010年と比べて20%減少
- ・2018年の農業産出額は約225億円で、2014年と比べて7%増加
- ・2019年の林業就業者数は188人で、2010年と比べて22%減少
- ・2019年の林業素材生産量は97,892m³で、2010年と比べて21%増加
- ・農林業の近代化や組織経営への転換等により、生産量等は増加傾向
- ・一方、農林業従事者の減少、高齢化の進行、担い手不足により、放棄地の増加や山林の荒廃といった問題が顕在化
- ・農林業については、食料や木材の供給という役割だけでなく、食の安全・安心や県土保全、景観形成、地球温暖化対策など公益的機能の保全の観点からもその重要性の見直しが必要

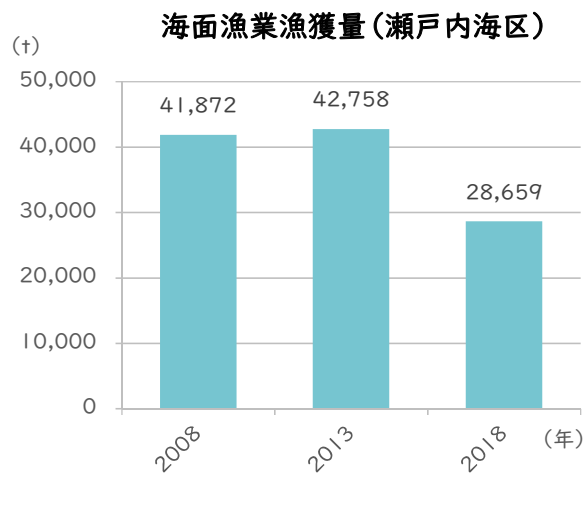


⑥ 漁業

- ・2018年の漁業就業者数は131人で、10年前と比べて34%減少
- ・就業者の高齢化と新規就業者が減少
- ・地球温暖化や海の貧栄養化などにより漁獲量が減少



出典 兵庫県「漁業センサス」



出典 農林水産省「漁業生産額」

12 気候変動、頻発する豪雨

- ・地球規模の気候変動により、日本の年平均気温は2050年までに約1℃上昇
- ・県では、最近の約25年間で平均気温14℃以下の領域が減少し、15℃以上の領域が拡大
- ・県内でも猛暑日や熱帯夜の増加、さらなる局地的大雨の頻発が想定
- ・全国の1時間降水量80mm以上の年間発生回数は平均18.1回と、約30年前と比べて約1.7倍に増加
- ・新しい技術を活用した地域のエネルギー自立とともに、環境を優先するライフスタイルなど自身の生活を変えていくことも必要

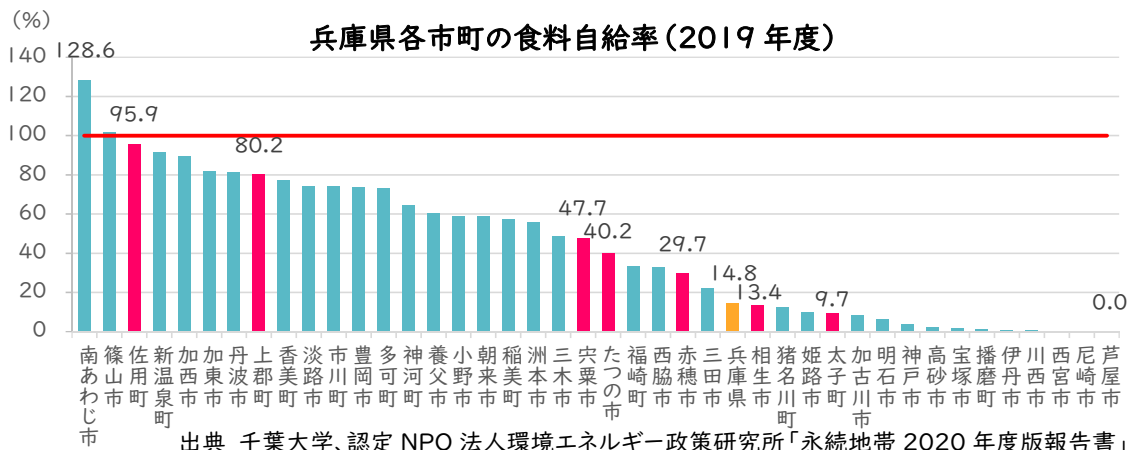
13 環境保全の取組

- ・地球温暖化の進行や生物多様性の危機など地球規模での環境問題が深刻化している一方で、ゴミの分別やリサイクル、節電など住民の環境保全の取組みが進展
- ・2018年の1人1日当たりのゴミ排出量は929gで、10年前と比較して7%減少
- ・一方、県民意識調査の「自然環境が守られていると思う人の割合や再生可能エネルギー利用に取り組んでいる人の割合」は、低下傾向
- * 県民意識調査「地域の自然環境は守られていると思う人の割合」
(2011年:56.5%→2021年:47.6%)
- * 県民意識調査「再生可能エネルギーを利用する取組に参加している人の割合」
(2011年:35.3%→2021年:20.3%)

14 自給が求められる食料とエネルギー

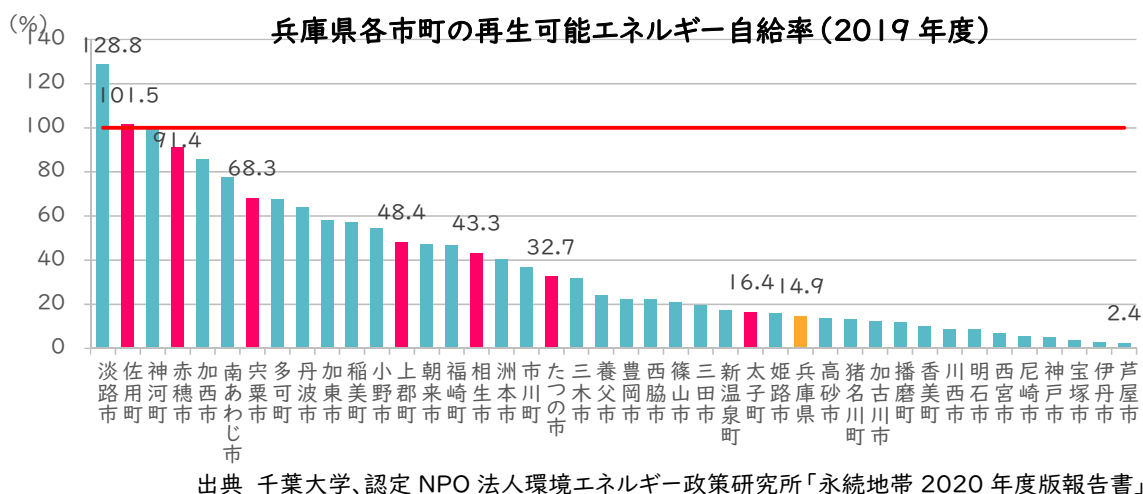
① 食料自給率

- ・2019年度の食料自給率は、管内5市町が県平均より高水準
- ・管内市町では佐用町が一番高く、県下でも南あわじ市、篠山市に次いで3番目に高い（佐用町95.9%、兵庫県14.8%）



② 再生可能エネルギー自給率

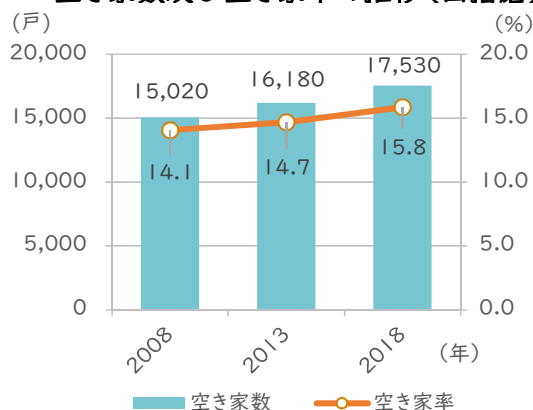
- ・2019年度の再生可能エネルギー自給率は、管内全市町が県平均より高水準
- ・管内市町では佐用町が一番高く、県下でも淡路市に次いで2番目に高い（佐用町101.5%、兵庫県14.9%）



15 空き家の増加

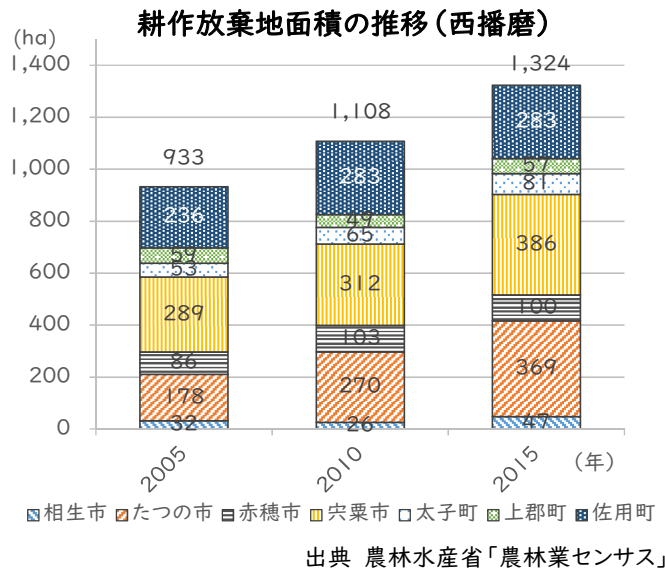
- ・人口減少が進む集落において空き家が増加
- ・管内の空き家数及び空き家率は一貫して増加しており、空き家数は10年前と比べて17%増加（2008年15,020戸→2018年17,530戸）
- ・放置され荒廃する空き家も増えており、倒壊、治安低下の懸念、集落景観の悪化など住民生活にマイナスの影響

空き家数及び空き家率の推移（西播磨）



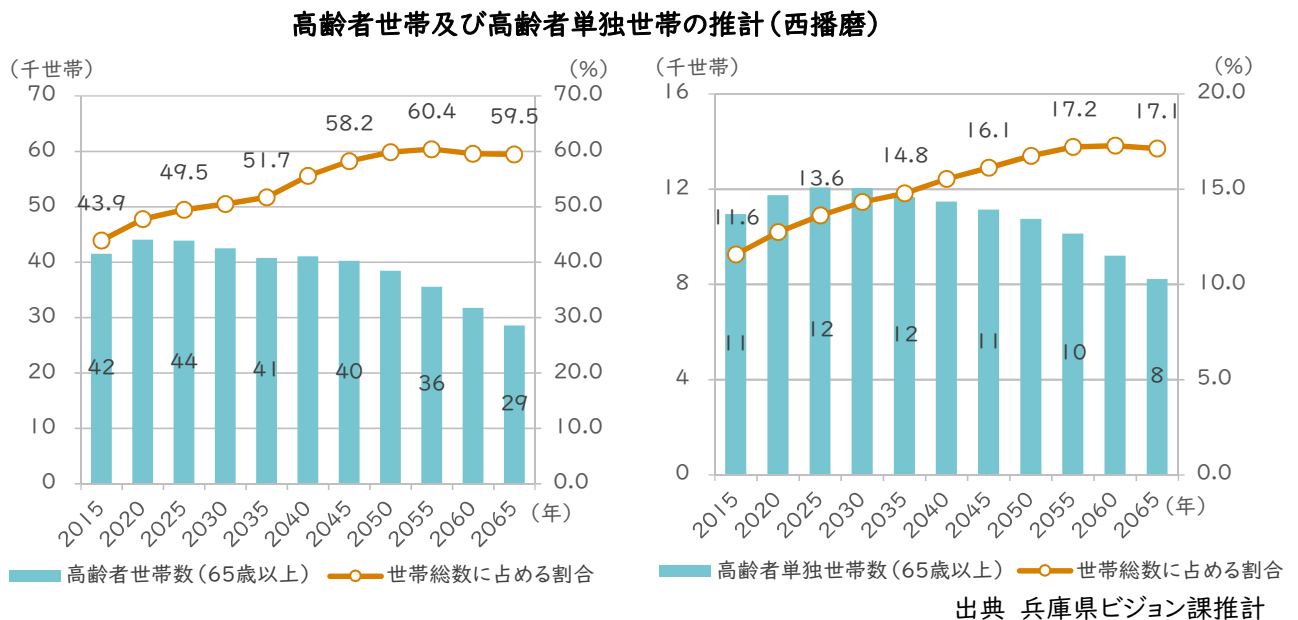
16 放棄される田畑や山林の増加

- ・過疎化・高齢化により農林業の担い手が減少し、耕作放棄地面積は、この10年間で1.4倍に増加
- ・採算性の悪化などで手入れがされずに荒廃した人工林や生活様式の変化などによって放置された山林が増加
- ・農地や森林の持つ公益的機能の保全の観点からも担い手の確保が必要



17 増える高齢者世帯

- ・2055年には世帯総数の約60%が高齢者世帯、約17%が高齢者単独世帯の見込み
- ・コミュニケーション機会の減少による他者との接点を持たない孤立化やゴミ出し、買い物などの日常生活困難者への目配りが必要



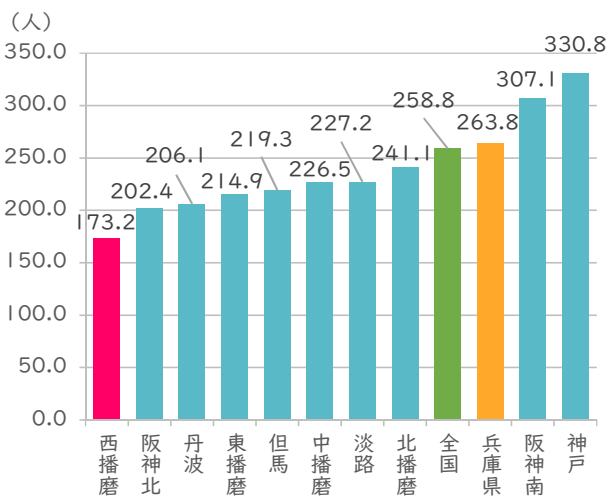
18 買い物・交通等生活基盤の確保

- ・大型店舗進出による近隣店舗の減少やスーパー撤退等により、一人暮らし高齢者等の買い物難民が増加
- ・移動手段の充実による公共交通不便地域における利便性向上が課題

19 医療・介護体制の確保

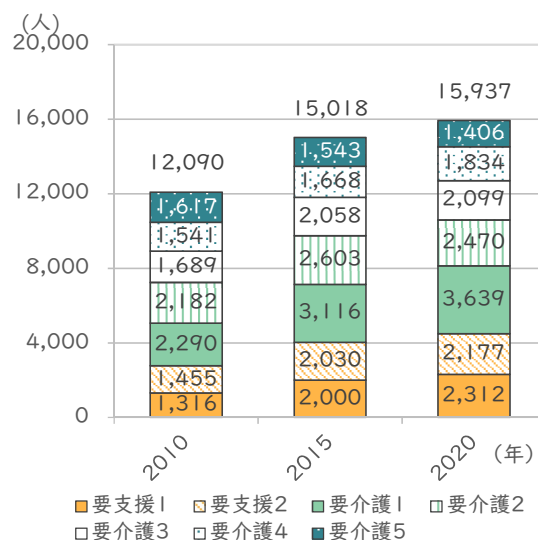
- ・一般病床数及び療養病床数は、県平均を上回っているものの、人口10万人あたりの地域別医師数は、西播磨が173.2人で最小
- ・特に産科・産婦人科医師数の減少が顕著(2004年比26.7%減)
- ・後期高齢者の人口増加に伴い、2020年の要支援・要介護認定者数は15,937人に増加(2010年比32%増)

地域別人口10万人あたり医師数(2018年)



出典 兵庫県「医師・歯科医師・薬剤師統計」

要支援・要介護認定者の推移(西播磨)

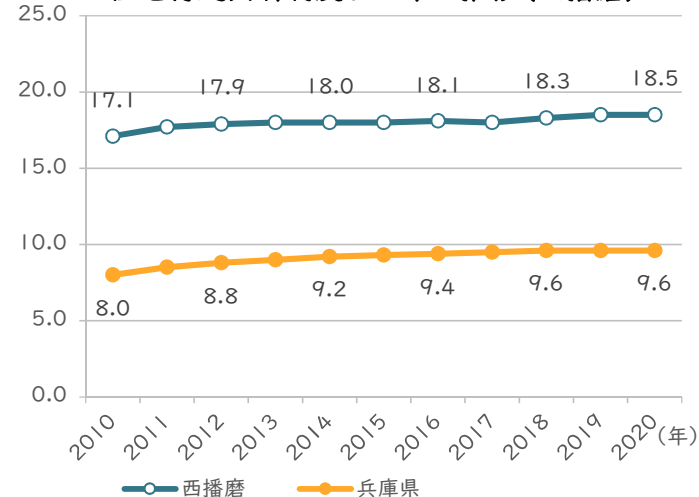


出典 兵庫県「高齢者保健福祉関係資料」

20 災害に対する備え

- ・30年以内に南海トラフ地震が発生する確率は70~80%程度
- ・2020年の兵庫県住宅再建共済制度の加入率は18.5%で県平均9.6%を上回り、2010年以降増加傾向(2010年17.1%→2020年:18.5%)
- ・県民意識調査の「防災訓練等への参加や災害に対する自主的な備えをしている人の割合」は緩やかに増えているものの、その割合は4割程度
- *県民意識調査「災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合」(2013年:38.8% →2021年:40.1%)
- *県民意識調査「家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合」(2012年:24.7% →2021年:38.7%)

住宅再建共済制度加入率の推移(西播磨)



出典 兵庫県住宅再建共済基金

Ⅲ 基本理念（めざす姿）

現行ビジョンで掲げた「光と水と緑が地域のすみずみまでネットワークを形成し、西播磨の地域全体が元気に躍動することをめざす『光と水と緑でつなぐ 元気西播磨』」の理念を継承し、引き続きビジョンの実現に向けて取り組んでいく基本理念とします。

基本理念 **光と水と緑**でつなぐ 元気西播磨

光と水と緑が地域のすみずみまでネットワークを形成し
西播磨の地域全体が元気に躍動することをめざす

光:人・地域・産業がキラリと輝く

水:森・川・海が美しく連なる

緑:森林・農地・都市がいきいきと彩られる

Ⅳ 西播磨地域の将来像と取組目標

地域の皆さんからいただいた意見をもとに、皆さんが共感できる地域の将来像とそれを実現するための取組みの方向性として、4つの将来像と16の取組目標を取りまとめました。

西播磨地域の多様な主体が、参画と協働により主体的に取り組む、実現していく方向性を提案するものです。

将来像 1 つながる地域のきずな西播磨 ～地域でともに支え合う繋がりのあるまち～

取組目標 1

地域みんなで子育てを
応援しよう



取組目標 2

次代を担う人材を
育てよう



取組目標 3

ほどよいおせっかいで
縁を結ぼう



取組目標 4

あらゆる多様性を
尊重しよう



将来像 2 元気な西播磨

～地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち～

取組目標 5

自慢したい地域の資源
を守り活かそう



取組目標 6

戻りたい・住み続けたい
地域にしよう



取組目標 7

自分らしく活躍できる
地域をめざそう



取組目標 8

地域とともに成長する
産業を育てよう



将来像 3 自立の西播磨

～地域で循環するまち～

取組目標 9

自然と共生しよう



取組目標 10

地産地消を進めよう



取組目標 11

遊休資源を知恵と
工夫で活かそう



取組目標 12

より輝く播磨科学公園
都市をつくろう



将来像 4 安全安心の西播磨

～誰もが安心していきいきと暮らせるまち～

取組目標 13

いきいきと暮らせる
地域をつくろう



取組目標 14

移動に困らない地域を
めざそう



取組目標 15

健康・福祉が充実した
地域をめざそう



取組目標 16

防災力を高めよう





取組目標 1

地域みんなで子育てを応援しよう

地域みんなで子育てを応援し、誰もが安心して子どもを産み育てたいと思える地域をつくろう

〈取組の方向性〉

子どもを育てやすい就業環境や保育サービスの充実、ご近所同士の助け合いなど、家庭・学校・地域・職場などさまざまな主体が協力し、子育て(*)を地域全体が応援する環境づくりに取り組み、誰もがここで安心して子どもを産み育てたいと思える地域をつくろう。

*子育て:子どもを主体として捉え、子どもが自分で育つ力を周りが応援すること。



地域コミュニティの活性化にも寄与する地域ぐるみで取組む登下校の見守り活動
(赤穂市)



子育て世代が情報交換や友達づくりの場として自由に交流する「子育てつどいの広場」(たつの市)



「木育」推進の一環として宍粟材を使った木のおもちゃが揃う「子育て支援センター」(宍粟市)

〈主な県民意見〉

- ・学校以外のところで地域がいかに深く関わるか、地域で子どもを育てることが大事。
- ・地域のコミュニティを活性化させ、共助により若者（特に子育て中の女性）が安心して働ける地域にしたい。
- ・地域に愛着を持つよう地域の子どもは地域の大人が見守り育てるという、数十年前は普通であったことが「現在～これからの時代」に必要。
- ・地域行事は子どもが多く参加するように取り組む。コミュニティスクールとして学校、家庭、地域が一体となり、多くの大人が総がかりで地域の子どもを育てていく仕組みを地域に作っていくことが大切。
- ・子育て支援を地域の課題として捉え、若者が安心して住める地域社会の構築が必要。
- ・子育てと仕事の両立支援や地域全体で子育てを支える仕組みづくりが必要。
- ・子どもを安心して産めるまち、安心して子育てできるまちというのが、どの年代にとっても暮らしやすいまちに繋がる。

〈取組目標を実現するための県民による取組例（県民意見より）〉

個人で出来ること

- ・日常的に挨拶を交わすなど、地域全体で子どもを見守る。
- ・子育てを模擬体験する。
- ・結婚や子育ての経験を次の世代に伝える。
- ・高齢者も保育に参加し子育て世代を支える。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作れること

- ・子育て世代が悩みを相談したり情報共有できるネットワークをつくる。
- ・子どもが楽しめる遊び場をつくる。
- ・子育て応援企業に参加する。



地域の方と一緒に学習したり遊んだりする
「放課後子ども教室」（上郡町）



育児の援助を受けたい人と行いたい人を結ぶ
「ファミリーサポートセンター事業」（佐用町）

取組目標1のピクトグラムは、大毛 あゆみさんの作品です。

2 次代を担う人材を
育てよう



取組目標 2

次代を担う人材を育てよう

ふるさとに愛着や誇りを持つ若者を育み、生まれ育った地域を守り支える担い手を育てよう

〈取組の方向性〉

ICT技術等の活用によりどこに住んでいても質の高い教育が受けられる環境づくりを進めるとともに、学校や地域、地元企業などさまざまな主体が協力し、地域ぐるみで特色ある教育を展開し、ふるさとに愛着や誇りを持つ若者を育み、生まれ育った地域を守り支える担い手を育てよう。

また、豊かな自然環境を活かしたこの地ならではの体験教育などにより、その教育環境に魅力を感じ、移住先や農山漁村留学先として西播磨を選んでもらえるような地域をめざそう。



小中学校において1人1台端末を活用した授業を実施(たつの市)



運動部活動に外部指導員及びICT指導を導入し、部活動の活性化を促進(赤穂市)



校外学習で城跡に建つ学校周辺の歴史を学ぶ
小学校児童(宍粟市)

〈主な県民意見〉

- ・スポーツで頑張っている選手は、地域が積極的にに関わり、地域の愛情をたくさん貰っているような気がする。地域に誇りを持ち、地域を背負って発信してくれる子どもを一人でも多く増やしたい。
- ・言われたことは完璧にやるが、自由な発想ができない子どもが増えていると感じる。
- ・教育の機会と質の確保ができるか不安を覚えており、地方の教育環境やデジタル教育環境の整備が必要。
- ・ICT化により地域格差を埋められ、西播磨から出て行かなくても高度な教育が受けられるようになってほしい。
- ・自然の中で活動し、自然を愛し、思いやりのある青少年を育て、地域を牽引する社会人を育成する活動が大切。
- ・地域の活動に大人、子ども問わず、積極的に参加できる環境づくりや、自他ともに考えられる人を育てる教育が必要。
- ・目指すべき姿は、子育てしたいと思われる地域、東京並みの教育水準や学び方の自由度が高い地域。次世代の人材を育成する上でも、子育てや教育が大事。
- ・子どもの感性を養うことが自由な発想につながると思うので、たくさんの自然を教育の中にとり入れるかが大切。自分の目で見て触って感じられる、そういう体験の場を大切にしたい。
- ・将来を任せられる人材づくりが必要。そのために、学校教育を見直すことから始めるべき。人間味のある子どもたちを育てるには、自然環境を利用して遊ばせ、心の広い考えの持てる子どもづくりが必要。

〈取組目標を実現するための県民による取組例（県民意見より）〉

個人で出来ること

- ・学校運営に地域住民も積極的に参加する。
- ・地域行事や地域づくり活動への参加を若者にも呼びかける。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・自然・仕事・文化等の体験学習を通して子どもの感性や社会性を育む。
- ・地域の歴史や資源、伝統文化など、ふるさとの良さを若者へ伝える。



ICT環境を活用した近隣学校との「合同授業」等を実施（相生市）



市内企業や事業所による「産業展」で大作業に挑戦する子どもたち（宍粟市）

取組目標2のピクトグラムは、徳永 瑚心さんの作品です。

3 ほどよいおせっかいで
縁を結ぼう



取組目標 3

ほどよいおせっかいで縁を結ぼう

人と人の温かいつながりを大切にする地域をめざすとともに、地域全体で縁結びを応援しよう

〈取組の方向性〉

「地域の課題は自分たちで解決していく」という共助の意識が根付き、多様な価値観が尊重され、人と人の温かいつながりを深め、地域のコミュニティ機能を再生させ共に支え合う地域をめざそう。

単独集落では解決できない課題は、近隣の集落が連携し助け合いながら解決していくことができる地域をつくろう。

また、結婚を希望している人には、地域全体で出会いの場や縁結びを応援する取組みを広げよう。



地域住民のための買い物拠点としてオープンした地域住民が運営する「にこにこマーケット」
(宍粟市)



住民が主体となって地域の課題解決に
取組む活動(たつの市)



地域の魅力アップのため住民と一緒にハーブの
種まきを行う有年中学校生(赤穂市)

〈主な県民意見〉

- ・西播磨の人は温かく人がいい。支え合いの基盤である温かい「おせっかい文化」を受け継ぎ、地域で支え合って生きていくまちになってほしい。
- ・公助に頼りすぎず共助によって未来を拓く、新しい田舎を目指す。
- ・ご近所や地域のことを大切に考える人が今よりも増えてほしい。
- ・人口減少について、結婚しない自由や子どもを産まない自由がある中、有効な手段が少ないと思うが、子どもの頃から意識改革を促していくことが必要。
- ・若い世代の婚活が全体的に必要である。最近では、未婚化・晩婚化が相当進んでいる。青少年活動事業など若い人の交流の場が必要。
- ・高齢化率 55%を超える小さな地区で働いているが、その地区が好きで「おせっかいな人」が多い。しがらみとも言えるが、これからの時代に必要。物をくれたり、子供の面倒を見てくれたり、若い世代が抱えている悩み、延長保育が短くフルタイムで働けない問題を、おせっかいな人が担うことにより解決するのではないか。
- ・人と人のつながりがあり、地域住民が協力し合える地域になってほしい。
- ・一人一人の取り組みが地域を支えるという自治意識が高まってほしい。
- ・誰もが地域活動に参加し、ご近所のつながりを持ち、助け合う社会が望ましい。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・年齢や性別等に関係なく、地域活動に参加していく。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作れること

- ・男女の出会いや交流の機会をつくる。
- ・地域活動に取り組む団体同士が交流し、ネットワークづくりを進める。
- ・地域自治を担う新たな組織を作り運営する。
- ・地域づくりに参加しやすい仕組みを住民で話し合う。
- ・校区単位など広域的なネットワークによる担い手を確保する。
- ・地域に変化を生み出す関係人口も巻き込む。



出会いの場や縁結びを応援する「料理婚活」(相生市)



出会いをサポートするえん結び支援員が主体となって取組む「婚活支援事業」(佐用町)

取組目標3のピクトグラムは、砂原 志帆さんの作品です。

4 あらゆる多様性を
尊重しよう



取組目標 4

あらゆる多様性を尊重しよう

様々な価値観や文化等を尊重し受け入れ、多様な人が関わってくれる地域をめざそう

〈取組の方向性〉

多様な価値観や異なる文化を持つ人への理解と共感を深め、地域に興味を持っている外部の人や外国人など多様な人を受け入れる地域をめざそう。多様な人が地域に関わり新たな担い手として活躍するなど、地域の持続と活性化に多様な人材を活かそう。



住民と地域で暮らす外国人が交流する「国際ふれあいまつり」(宍粟市)



様々な国や地域の文化とふれあい交流する「国際交流イベント」(たつの市)



年末恒例「久崎市」での佐用日本語学校の学生有志による出店(佐用町)

〈主な県民意見〉

- ・時代により変化する価値観に合わせ、慣例や伝統を若者たちに受け入れられるように変えていくことも必要。若者・子育て世代に魅力ある住みやすいまちにしたい。
- ・地域も時代に合わせて変革は必要。従来のものを守りつつ、価値観の多様化に合わせて新しいものを取り入れるような寛容さ、チャレンジも大切。
- ・田舎は閉鎖的で外部の者を受け入れない風潮があるので、地域で変えていかなければならない。
- ・活気に満ちた地域社会の実現には、地域に住むあらゆる世代が個々で世代間ギャップや考え方の違いを認識し、社会情勢の変化を柔軟に受け入れる必要がある。地域住民が互いの意見・立場を尊重しながら、共助が地域社会には必要。
- ・地方の人口減対策として、外国人の活用もポイントになる。いかに外部から人を呼び込んでくるかが課題。人がいないと消費も回らないし、経済も回っていかない。
- ・外国人は自国の文化をそのまま持ち込んで就業するため、地元採用者との調和を図っていく必要がある。
- ・人口減イコール悪ではない。人口が減っても豊かに暮らし続けられる地域を守っていくために、自治会や地域運営組織は、人口が減ってもやっていけるように事業や体制を見直すなど変化していくことが必要。
- ・自治会運営に子どものアイデアを取り入れるなど、子どもを巻き込んだ地域づくりも必要。地元愛の醸成にも繋がる。
- ・自治会組織への女性の参画など、自治会運営も変えていく必要がある。
- ・農林コミュニティの分野では、外国人や興味を持っている地域外の者が短期でも自由に入りできるコミュニティ、それを許容していく地域側の態度や認識の変革が必要。
- ・地域、産業等多方面で、「昭和的な社会の形(中央集権、行政主導、上意下達、男性重視、年長者重視、大都市大企業志向、拡大再生、専業主婦等)」を大きく変える必要がある。
- ・外部人材や外国人の活用・共生がコミュニティ維持の突破口にもなる。
- ・外国人との関係性は、様々な分野でこれから相当重要になってくる。多文化を共有し外国人とのコミュニティとしての繋がりを創っていく必要がある。
- ・地域が地域を支えるのは限界が来ている。外部人材も活用した新しいコミュニティづくりの必要性を感じている。ボランティアでは継続困難なため、地域で儲ける仕組みづくりも必要。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

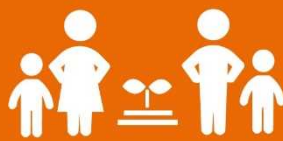
- ・多様な背景を持つ人の交流の機会を持ち、それぞれの文化への理解を深める。
- ・地域の情報を多言語対応で発信する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・地域団体の役員やリーダー層に多様な人材を積極的に登用する。
- ・地域の担い手として、外国人にも地域活動に参加してもらう。

取組目標4のピクトグラムは、大毛 あゆみさんの作品です。

5 自慢したい地域の
資源を守り活かそう



取組目標5

自慢したい地域の資源を守り活かそう

特色ある資源をみんなで共有し地域全体で引き継いでいくとともに、
交流や賑わい創出に有効活用しよう

〈取組の方向性〉

豊かな自然や美しい町並み、魅力的な食・歴史・文化など、特色ある資源を
地域に対する誇りや愛着を生む源として認識し、地域全体で守り引き継いでい
く取組みを広げよう。

それらの資源の強みをさらに高め活用することで、その魅力に惹きつけられて
観光客や移住者など地域外から人が集まり交流と活気を生み出す地域をめざ
そう。

また、西播磨地域の特性を活かし、県境を接する岡山県や鳥取県との様々な
分野での交流や連携を深め、互いの魅力を高め合い、地域の活性化につなげ
よう。



近世から近代にかけて発展した醸造町の歴史的風致を伝える
「龍野重要伝統的建造物群保存地区」(たつの市)



地域外からも多くの観光客で賑わう「ペー
ロン祭」令和4年にペーロン伝来100周年
を迎える(相生市)



地域の歴史資源を活かし内外に地域の魅力
を発信する「白旗城まつり」(上郡町)

〈主な県民意見〉

- ・西播磨は自然を感じられる一方で、都会的な便利さもある。ある程度便利で自然がある生活がいい。
- ・田舎であることを自慢できる田舎になってほしい。みんなが地域のいいところを3つは言えるまちにしたい。
- ・個人も地域もそれぞれが発信力を高め、守りではなく攻めの姿勢で西播磨の魅力を発信していけば、地域外からもっと人を呼び込める。
- ・西播磨には、歴史や風土を背景とした日本遺産や伝統的なまち並み、伝統文化が多く存在する。古き良き西播磨の個性を守りながら、新しい時代にあったまちづくりをめざしていく。
- ・西播磨は、醤油、味噌、日本酒など発酵食の宝庫。この豊かな食文化を受け継ぎ、発展させていく人材を育てていきたい。
- ・揖保川と千種川の清流は、子どもたちの良い自然体験の場となっている。こうした多自然地域ならではの良さを引き継いでいかなければならない。
- ・都会の人から見れば牡蠣は魅力で、人を誘致する武器になることを知った。強みを伸ばすにはどうしたらいいかを考えることが大事。地域の特色を活かせるような取組が重要である。
- ・地域資源（観光資源）を活用し、1年を通じて人が何度でも訪れたい魅力あるまちづくりが必要。
- ・人口が減らない市町村は自分のまちの特徴をよく掴んで、その特徴を最大限に生かした取り組みをしている。魅力あるまち並み等で人を呼び込み、観光産業が活性化してほしい。
- ・SNS等で情報発信はしているが、地域の認知度が低い。重要伝統的建造物群保存地区に指定された観光資源や、海、山などを、マスコミとのタイアップ等により知名度を上げる取組が必要。
- ・農村地域に居住する人を増加させるため、地域の魅力を知ってもらうことから取り組む必要がある。また、受け入れ態勢を整えることも大切。
- ・高速通信網が都会と同様に整備され、テレワーク技術の発達により企業のオフィス分散などで利用される地域になってほしい。
- ・テクノロジーの進化により都市部でなくても仕事ができるという前提で、地方の住環境の整備が必要である。企業が移ってくることができれば、人口流出の一番の歯止めになる。

〈取組目標を実現するための県民による取組例（県民意見より）〉

個人で出来ること

- ・地域住民自らが新たな地域資源を発掘し、SNS等で地域外や海外に向けて情報発信する。
- ・ボランティアガイドへ参画する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・伝統文化体験や農村体験など地域資源を活用した体験型観光に取り組む。
- ・ワーキングホリデーやWWOOF^(※)などを積極的に取り入れ、地域外との交流が盛んになる取組を進める。
※ WWOOF(ウーフ)：無給で「労働力」を提供する代わりに「食事・宿泊場所」「知識・経験」を提供してもらうボランティアシステム
- ・自然やまち並みを活かした芸術祭を開催する。

取組目標5のピクトグラムは、今西 美結さんの作品です。

6 戻りたい・住み続けたい地域にしよう



取組目標6

戻りたい・住み続けたい地域にしよう

若者がいったん地元を離れても戻ってきてくれる地域、移住先として選ばれる地域をめざそう

〈取組の方向性〉

雇用の場の確保や快適な住環境整備とともに、幼い頃からふるさとへの誇りや愛着を育て、若者が出て行かない地域、いったん地元を離れても戻ってきてくれる地域をめざそう。

また、テレワークなどデジタル技術の発達により、働く場所や住む場所の自由度が増すことで、ほどよい田舎暮らしに関心のある人々を全国から呼び込むため、身近に農を楽しむ環境、豊かな自然や安全に暮らせる環境、人と人とのつながりなど、みんなで西播磨暮らしの魅力を情報発信し、西播磨に関わり続けてくれる人や移住してくれる人を増やそう。



働く場や移住先として選ばれる地域を目指し、若者等に地域企業の良さを紹介する合同企業説明会(相生市)



千種中学校生による金属加工を行う地元企業の見学(宍粟市)



佐用高校生による水門などの設備製造を行う地元企業の見学(佐用町)

〈主な県民意見〉

- ・古民家をもっと活用すべき。田舎暮らしに憧れた人の移住が増えて、農業、林業が盛んになってほしい。
- ・時間に追われず、物にとらわれず、自分に合ったもので自由に暮らせる、帰りたくなる故郷になってほしい。
- ・仕事の在り方が変わり、住むところの自由度が増し、都市部で無理をして生活している人たちを西播磨に引き入れることができれば、人口の下げ幅は抑えられるのではないかと。交通の便が良いところ、自然も豊か、子育て環境等、地域の良さをPRしていければよい。
- ・いま住んでいる子供が大人になっても、地元に住みたいと思えるまちになってほしい。
- ・若者が住みやすい環境づくりが必要。一旦離れてもまた戻りたいと思えるような、誇りを持つ、魅力ある地域になってほしい。
- ・UJIターンの促進について、兵庫の子どもが県外の大学から県内に戻ってきたら、3年間家賃を無料にするなど、就職活動の時から地元を意識させることが大事。
- ・子どもが羽ばたくことはいいことだが、地元に戻ってこようと思う選択肢を考えられるようにしておく必要がある。
- ・テレワークの定着により都市部からの移住が増え、若者が出ていかないまちになってほしい。安心して働け、定着でき、働く環境が整備された場所を選ばない働き方が地方の活性化につながる。

〈取組目標を実現するための県民による取組例（県民意見より）〉

個人で出来ること

- ・若者に地元企業の良さを紹介する。
- ・就農希望者へ農地や空き家を提供する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・移住者を温かく受け入れる雰囲気地域をつくる。
- ・地域外の大学に進学した若者に地域の情報を発信し繋がりを持つ。
- ・UJIターンによる移住希望者を支援する（移住相談、先輩移住者との交流、空き家の紹介等）。



短期または長期のお試し暮らしができる
移住体験住宅「カメラリア」（上郡町）



移住に関心のある都市部の方に田舎暮らしの
魅力を伝えるオンライン移住相談会（佐用町）

取組目標6のピクトグラムは、岸本 穂果さんの作品です。

7 自分らしく活躍できる
地域をめざそう



取組目標7

自分らしく活躍できる地域をめざそう

誰もが個性と能力を発揮しながらいつまでも自分らしく活躍できる
地域をめざそう

〈取組の方向性〉

年齢や性別、障がいの有無などに関わりなく、誰もが個性と能力を発揮しながら活躍できる場があり、いつまでも生涯現役でやりがいを持って自分が希望する社会参加や働き方が見つかる地域をめざそう。

また、家庭や地域、職場において、男女ともに働ける環境づくりを進め、「性別などによる役割分担意識」のない地域をめざそう。



地元企業と協力し農福連携でバジル栽培・加工業務を行うNPO法人(たつの市)



スポーツによる交流を通じ障がいの者の健康増進や社会参加促進を図る「あいあいスポーツ大会」(相生市)



市内福祉施設で製作されたパンやクッキーなどが並ぶ就労支援事業所の販売会(宍粟市)

〈主な県民意見〉

- ・子育て支援員という制度があるが、保育士不足のため、元気な高齢者が保育に参加できる仕組みがあればよい。
- ・子育て中の女性からは、「働く場所がない、子ども連れでも働ける場所、2時間だけでもいいから働きたい」という意見が多い。新しい働き方改革として、そういった人の働く場も提供できればいい。
- ・テレワークの促進等により、一極集中ではなく地元において生活・雇用が成り立つ環境が実現してほしい。人が出て行かなければ地域ももっと活気づく。
- ・ICTの発達により、どこでも働けるようになることで、若者が地域に残り、豊かな自然を活かした事業で新たな雇用を生み出している。
- ・ICTを活用して、高齢者が職に就けるような環境が実現してほしい。
- ・障がい者は福祉以外の分野でも活躍できる十分な能力があるので、もっと積極的に活かすべき。
- ・農福連携など普段交わらないところが交わることによってイノベーションが生まれる可能性がある。横断的な取組み、協働の取組みが大事。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・高齢者が経験を生かして積極的に社会参加する。
- ・元気高齢者が子育てや介護ボランティアに参加する。
- ・多様な暮らしができる自分らしい働き方を見つける。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作れること

- ・障がいのある人が能力に応じて働ける環境をつくる(マッチングのしくみづくりなど)。
- ・農福等の異業種連携を促進する。
- ・地域住民主体でコミュニティビジネスに取り組む。
- ・仕事と子育てが両立できる柔軟な働き方に取り組む。
- ・性別に関わらず育児休暇を取得しやすい環境づくりを進める。
- ・生きがいづくりの場を創出したり参加する。



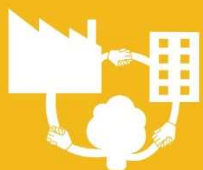
やりがいのある社会参加として放課後子ども教室で子ども達に勉強を教える地域住民(上郡町)



旧長谷保育園跡地を活用した就労支援施設「えん花園」にて農福連携で取組むミツマタの乾燥作業(佐用町)

取組目標7のピクトグラムは、上田 愛結さんの作品です。

8 地域とともに成長する
産業を育てよう



取組目標 8

地域とともに成長する産業を育てよう

地場産業や農林水産業など、地域の特徴を活かした産業の成長を地域全体で応援しよう

〈取組の方向性〉

地元企業のブランド力や日本を代表する地場産業、特色ある農林水産物、豊かな森林などの地域資源を生かした産業を持続させるとともに、地域の特徴を生かした事業者や就農者等のさらなる成長を地域全体で進めよう。

また、空き店舗の活用などまちづくりと一体となった商店街の再生や創業・起業しやすい環境づくりを進め、身近な地域商業の賑わいを取り戻そう。



将来の林業人材を育成する県立森林大学校オープンキャンパスでの林業機械操作
(宍粟市)



農業技術を継承・普及させるために取組んでいる講座「さよう農の匠」(佐用町)



多彩な観光資源を有効活用するために赤穂スイーツを開発(赤穂市)

〈主な県民意見〉

- ・龍野は「レザー」「そうめん」「しょうゆ」の3つの日本一があるまち。この地場産業とまち並みを掛け合わせれば、地域を盛り上げることができる。
- ・多様な生き方が認められ、西播磨発のベンチャー企業が多く誕生してほしい。
- ・今ある地域資源を活用し、世界に通じるものを生み出し、大企業が拠点を置きたいと思える地域になってほしい。
- ・地域で農業の価値観を高め、自分たちで新たな農業の担い手を育成していきたい。
- ・観光や食を切り口にアピールし、交流人口の増加や定住のきっかけになれば、地域産業の活性化にも繋がる。
- ・広島のもみじ饅頭のような地域の特産品を開発し、地域に人を呼び込みたい。
- ・比較的恵まれた自然と交通の利便性を活かした住・勤近接、子育て世帯の定住増に伴い商店やニュービジネスが創業・立地してほしい。
- ・地域の活性化や賑わいづくりのため、創業支援や起業促進策の拡大により、新たな人が移住や起業しやすい環境づくりが必要。
- ・既存事業所の経営支援や事業承継支援、新規創業支援を継続的に行っていくことが必要。
- ・商店街で商売をやっているが、7~8割が閉店し、シャッター通りになっている。店舗兼住宅で流動性が低く、新しい事業への活用が難しいが、何らかの対策が必要。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・起業などチャレンジする人を積極的に応援する。
- ・農林水産業者や地元企業の魅力を広く情報発信する。
- ・空き店舗や耕作放棄地を起業希望者へ提供する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・地場産業の地域ブランド力の強化や技術を継承する人材の育成を進める。
- ・創業・起業セミナーや異業種交流会を開催して人材を確保する。
- ・創業予定者が情報共有できるコミュニティを形成する。
- ・新規就農者を積極的に受け入れる。
- ・農林水産物のブランド化や新商品の開発、6次産業化を進める。
- ・空き店舗等を活用し、まちなかの再生・活性化を図る。



イタリア料理を提供する農家レストラン「Trattoria da LUCA」の創業支援(たつの市)



豆類では全国初の地理的表示保護制度(GI)に登録された「佐用もち大豆」(佐用町)

取組目標8のピクトグラムは、上田 愛結さんの作品です。

9 自然と共生しよう



取組目標9

自然と共生しよう

豊かな自然環境を守り育てながら人と自然が共生した持続可能な地域をめざそう

〈取組の方向性〉

水と緑に恵まれた西播磨の豊かな自然環境の大切さを認識するとともに、森林・農地が持つ多面的な機能（食料や木材などの自然の恵みだけではなく、自然災害を防いだり、癒やしや学習の場など）の維持や生態系を守る取組、自然から得られる資源を地域で有効に活用するなど、自然環境を守り育てながら人と自然が共生した持続可能な地域をめざそう。



森林がもたらす心と身体の癒やし効果が科学的に認められた「森林セラピー」（宍粟市）



豊かな自然環境の大切さを認識するための環境体験（ゴミ収集、植物や磯部の生物の観察）（相生市）



環境省名水百選認定の千種川ほとりにある宿泊型アウトドア施設「南光自然観察村」（佐用町）

〈主な県民意見〉

- ・西播磨は、森川海など豊かな自然に恵まれ、自然災害が少ない魅力がある。
- ・この豊かな自然の恵みを西播磨地域全体で守っていく必要がある。
- ・人と自然が調和し、生き生きと健康で暮らせるまちになってほしい。
- ・豊かな自然の中で、大地の恵みを活かしのびのびと子育てしていることが新たな魅力となり、西播磨で子育てする人が増えてほしい。
- ・AIとかロボットとかスマートファクトリーづくりが進むほど、人間は心のバランスが大事で、自然と一緒に大切になる。自然を日常生活に取り入れるのが、これからの豊かさだと思う。
- ・自然と共生し、豊かな自然や田園風景を後世に残したい。
- ・恵まれた環境の特性を生かし、水産物や自然を次の世代に残しつつ、若者が住み続けることができる環境が実現してほしい。
- ・過疎地ならではの手を入れない自然の活用を模索すべき。野生動物の保護区等を取り入れながら、ジビエ生活体験地域を目指す。
- ・豊かな自然とは、森が生活の一部になるなど日常的に自然と接していること。森と地域住民との距離が近くなるような仕組みづくりも価値がある。森と住民との距離がより近くなれば、豊かな暮らしが実現する。
- ・Uターン者は雇用面だけでUターンを決めるのではなく、自然と共に育ったなど子供の頃のいい思い出や環境も地元に戻る決断をする重要な要素。
- ・ごみの分別を促進、減量化、資源ごみの再生等により、環境問題に取り組む。
- ・林業従事者の減少や森林資源の利用度減退により山林の荒廃が進んでおり、保全・再生させる必要がある。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・プラスチックごみの削減に向けた意識を啓発する。
- ・環境に配慮した製品を使用する。
- ・シカやカワウなどの有害鳥獣の駆除活動に参加する。
- ・環境保全活動団体と連携した環境保全活動に参加する。

地域や団体・事業者など周りのみんなでも出来ること

- ・ごみの回収や水質の適切な管理等できれいで豊かな海の再生に取り組む。
- ・自然を生かした子どもとの交流活動や身近な自然とふれあう環境学習を開催する。



野生動物による森林や農地等への被害を低減するために地元住民が参画する森林整備(たつの市)



清流に飛び交うホタル(佐用町)

取組目標9のピクトグラムは、宗接 柚子さんの作品です。

10 地産地消を進めよう



取組目標 10

地産地消を進めよう

食料や木材、エネルギーなどの自給力を高め、資源の地域循環をめざそう

〈取組の方向性〉

健康志向や食へのこだわりが高まる中、西播磨ならではの伝統的な食文化や食材の大切さ、食を支える農林水産業の大切さを認識し、郷土料理や地元産品を使用した地産地消をさらに進めよう。また、森林の苗木育成から伐木、建築まで木材の地産地消を進め、地域の力強い農林水産業の活性化につなげよう。

さらに、地域全体で徹底した節電・省エネに取り組むとともに、自然環境や景観の保全に努めながら、地域の空き空間や資源を生かして再生可能エネルギー（太陽光・小水力・バイオマスなど）を生み出し、温室効果ガス排出実質ゼロのカーボンニュートラルの実現に貢献するエネルギー自給の高い地域をめざそう。

西播磨全体で食料や木材、エネルギーなどの自給力を高めつつ、近接する他圏域とも交流を進め、さらに循環を活発化させよう。



食文化や地産の学習を通して食を支える農林水産の大切さを認識する地元食材を使った料理教室（相生市）



地元の特色ある農作物について生産者から学ぶ小学生の地産地消体験（たつの市）



森林資源の地域循環にもつながる地元材を多用した木の温もりを感じられる住宅（宍粟市）

〈主な県民意見〉

- ・生活に必要な作物を自ら作り、時には狩猟を行い、収穫の喜びを味わう、自給自足の生活ができる地域になってほしい。
- ・地域ブランドを大切に、地元の安全で美味しいお米や野菜を地元で消費する環境が持続しているまちになってほしい。
- ・地産地消の発展に取り組むことが大切。
- ・海の環境が蘇り豊かな海に再生されることにより、新鮮な魚介類が提供でき、食の安全性の確保・雇用の創出も図れる。
- ・自然環境や周辺景観に配慮した循環型社会や低炭素社会への取り組みが必要。
- ・Uターンしても働く場がないなど、雇用の確保が重要。西播磨は山林が多く日本でも有数の施設がある。これらを上手く活用することで、森林資源がお宝に変わる可能性がある。森林資源を活用した地域にお金を落とせる仕組みづくりが大切。
- ・キーワードは「循環」。兵庫県の中で西播磨のメリットは岡山に近いこと。小さな地域内での循環、グローバルな循環、県域にこだわらない岡山との循環等、考えられることはたくさんある。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・家庭や学校給食などで地元食材を積極的に利用する。
- ・太陽光・小水力・バイオマスなどの再生可能エネルギーを使用する。
- ・環境負荷の低い移動手段を選択したり、公共交通を利用する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作れること

- ・地元の農林水産物を使ったアイデア商品を開発する。
- ・料理教室や料理コンテストを開催する。



地元の食材(米、野菜、大豆、みかん等)をふんだんに使った「赤穂産デー」の学校給食(赤穂市)



市内の学校給食や食育の取組を紹介する「宍粟市食育展」(宍粟市)



災害復興事業で発生した残土処分地を活用し設置された「佐用・IDEC 秀谷太陽光発電所」(佐用町)



地元醤油メーカーの醤油粕を肥料・飼料化する地域経済循環の取組(たつの市)

取組目標10のピクトグラムは、宗接 柚子さんの作品です。

11 遊休資源を知恵と工夫で活かそう



取組目標 11

遊休資源を知恵と工夫で活かそう

遊休資源を地域の課題解決につながる取組みに有効活用するなど、持続可能で自立した地域をめざそう

〈取組の方向性〉

耕作放棄地や空き家、空き施設などの遊休資源や森林などの豊かな地域資源を有効活用し、地域外住民との交流や賑わいづくり、食料品・日用品販売などの生活関連サービスや再生可能エネルギーを活用した事業化など、地域内で生産と消費活動が循環する経済活動のしくみをつくるなど、持続可能で自立した地域をめざそう。



住民が1世帯となった若州集落の空き家6棟を再生した1棟貸しの宿泊施設「グラミンカ SAYO」(佐用町)



廃校となった小学校の校舎を活用した地域住民が運営するゲストハウス(宍粟市)



旧龍野醤油同業組合事務所を活用した市の魅力を体感できる観光交流拠点「醤油の郷大正ロマン館」(たつの市)

〈主な県民意見〉

- ・自然の恵みを活用して、農林水産業でお金を稼げる地域にしたい。地域のブランドを高め大切にしたい。
- ・多自然地域でも豊かな資源を活用し、自立ができるような仕組みが必要。
- ・地域資源を活用した地域で稼ぐ仕組みを成立させる。
- ・市内に多くある空き家を活用し地域の活性化につなげることが大切。
- ・廃校をドローンの発着拠点にするなど、より発展的な廃校の有効活用が必要。
- ・町内に唯一あった小売店が閉店し、住民が食料品の買い物に困っている。同じような店舗の開店を望む声が多く、住民が自主運営による空き施設を活用した店舗開業を模索している。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・地域づくり活動に積極的に参加する。
- ・空き家や耕作放棄地を地域の取り組みに提供する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・空き校舎や空き店舗などの遊休施設を地域の交流拠点や買物施設、宿泊施設として活用する。
- ・地域住民が主体となり地域の課題をビジネスの手法(コミュニティビジネスなど)で解決する。
- ・農機具など高価なものは地域で共有する。



空き家だった古民家を地域の交流拠点として再生し定例市や各種教室などに活用(赤穂市)



廃校となった中学校の校舎を活用した株式会社による高校通信制単位制高等学校「相生学院高等学校」(相生市)



耕作放棄地を活用した地域住民によるサンショウの栽培(太子町)



旧酒蔵を交流拠点等として活用する地域住民が運営する「ギャラリーひがし蔵」(上郡町)

取組目標IIのピクトグラムは、雪野 貴良さんの作品です。



取組目標 12

より輝く播磨科学公園都市をつくろう

産学住が整う科学技術と自然が調和したまちをめざそう

〈取組の方向性〉

産学住が整う科学技術と自然が調和したまちを目指すとともに、生活基盤の充実と併せ、地域内住民・企業・学校等の連携や一体感、まちへの愛着や誇りを醸成し、より魅力あるまちづくりをめざそう。

また、産官学の連携により、SPring-8など西播磨の誇る科学技術基盤を成長分野の技術革新や中小企業のものづくりに生かす取り組みをさらに進め、国内外の課題解決に貢献する人材や企業を応援しよう。

さらに、新しい技術を用いた生活支援サービスの実証試験を播磨科学公園都市内で行うなど、住み慣れた地域で生活を維持していくための新たな地域モデルを構築する取り組みを進めよう。



世界最高峰の性能を誇る大型放射光施設「SPring-8(スプリングエイト)」とX線自由電子レーザー施設「SACLA(サクラ)」が共存する研究拠点(出典:RIKEN)

〈主な県民意見〉

- ・ドローン配送や自動運転技術の積極的な活用など、播磨科学公園都市を核に最先端技術を活用し社会課題が解決した暮らしやすいまちになってほしい。
- ・播磨科学公園都市への企業や研究機関の誘致、都市機能の充実が必要。

〈取組目標を実現するための県民による取組例（県民意見より）〉

個人で出来ること

- ・先端科学技術を用いた生活支援サービスの実証試験に積極的に参加し、新しい技術への理解を深める。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・SPRING-8やX線自由電子レーザー施設SACLAなど、世界的な科学技術基盤を活用する。



播磨科学公園都市内の住宅「光都21」



播磨科学公園都市の「まちの未来を考えるワークショップ」



播磨科学公園都市内の住民や学生等が企画運営する「光都イルミネーション点灯式」



播磨科学公園都市内の公道で実証運行する自動運転車



播磨科学公園都市内の公道を走行する超小型EV



播磨科学公園都市内の太陽光パネルを点検するドローン

取組目標12のピクトグラムは、宗接 柚子さんの作品です。



取組目標 13

いきいきと暮らせる地域をつくろう

誰もが住み慣れた地域で最後まで安全に安心して暮らせる地域をめざそう

〈取組の方向性〉

ICT機器や介護ロボットなども活用しながら、マンパワーによる見守りや日常生活支援、介護など支え合いによる安全安心のコミュニティが実現し、困った時には誰かが手を差し伸べ、弱い立場にある人を取り残さない、高齢者も障がいのある人も誰もが住みなれた地域で最後まで安心して暮らせる地域をめざそう。

また、地域でパトロールを実施するなど、防犯意識や交通安全意識を高め、家庭や学校、地域が連携して犯罪や事故などのない安全な地域をめざそう。



ひとり暮らし高齢者等を対象にお弁当を調理・配食し、声かけする「給食サービス」(太子町)



動画配信や温湿度・照度の確認ができる専用機器を使った新しい高齢者の見守り(たつの市)



だれもが気軽に参加できる地域の寄り合いの場「ふれあいきいきサロン」(佐用町)

〈主な県民意見〉

- ・IT技術を活用し、子育てや教育、医療、交通など、生活に不安がなく暮らせる人に優しいまちになってほしい。
- ・地域でいつまでも健康で暮らせる、誰も取り残されない地域づくりについて、どうすればよいか考えている。これからはミニマムな単位で子どもから高齢者まで一括して見ることができチームを、どれだけ地域の中にちりばめられるかという発想が必要。
- ・介護保険制度等の施行により、高齢者の日々の暮らしの場が変わりつつある中で、人々との繋がりのある人間らしい生活や、安心して暮らせる地域について今一度考え直さなければならない。
- ・犯罪や非行のない明るい社会はすべての人々の願いであり、次代を担う子ども達が健やかに育つ地域社会が安全安心な社会づくりの基本である。
- ・安心・安全な暮らしが一番、時代が進んでも人が生活をする上で最低限のことである。
- ・災害時や買い物支援など、高齢者が安心して暮らせるように、本当に困っている人の接着剤になり、行政との潤滑剤になれる人材が必要。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・住民同士で日常的に声かけや見守り活動を行う。
- ・ゴミ出しなど日常の困り事を近所で助け合う「ご近所ボランティア」に取り組む。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・買い物・通院など日常生活の移動が困難な人を支援する。
- ・人との会話や食事を楽しむなどいつも繋がりを感じられる居場所をつくる。
- ・地域ぐるみでの防犯パトロールの実施。



手話を言語として位置づけ、聴覚障がいの理解と手話の普及を進める「手話講座」(赤穂市)



地域で支え合う「高齢者等買い物支援事業」を利用して楽しく買い物する利用者(太子町)



ルールやマナーを遵守し思いやりをもった人材を育成するため小学校で交通安全教室を開催(宍粟市)



事故のない安全な地域をめざし各種団体が連携し交通安全運動を実施(相生市)

取組目標13のピクトグラムは、二宮 結里さんの作品です。

14 移動に困らない
地域をめざそう



取組目標 14

移動に困らない地域をめざそう

買い物や通院など、誰もが移動に困らず安心して外出できる地域をめざそう

〈取組の方向性〉

道路や鉄道などこれまで整備されてきた社会基盤の維持と活用を図りながら、交通手段の利便性向上や道路ネットワークの整備、将来に向けた自動運転の基盤整備を行おう。

また、公共交通機関の維持や利便性向上のため、姫新線をはじめとする鉄道やバスなどの利用促進に取組み、公共交通機関を地域全体で守っていく運動を展開しよう。

さらに、公共交通不便地域において、コミュニティバスの運営や住民相互による助け合いなど、地域が協働して地域ニーズにあわせた多様な移動・送迎支援サービスを充実させ、買い物や通院など誰もが移動しやすく、交通事故もない安心して外出できる地域をめざそう。



事前予約制で自宅から目的地までを乗り合いで送迎する市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」を運行(たつの市)

〈主な県民意見〉

- ・IT技術の発達で地域にあった形の充実した新たな公共交通システムが構築される。
- ・特に高齢化の進んだ郡部の輸送手段の確保が必要。
- ・市内の公共交通機関はバスしかないため、コミュニティバスの維持が必要。また、バスの運行システムの利便性を高め、多くの人々が利用できる仕組みへの改善も必要。
- ・買い物、病院に不自由なく行けるようになってほしい。
- ・自動運転の進歩により高齢者や障害者が自由に移動できる社会、交通事故のない安全・安心な社会が望ましい。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・自動運転車や新たな移動手段も活用しつつ、地域の足である公共交通も利用する。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・住民主体で地域交通を運営する。
- ・コミュニティバスなどの地域交通を維持させる。



地域の路線バスを守るため、公共交通に関心をもってもらうための試乗会(相生市)



年間乗車人員300万人の維持を目標にJR姫新線利用促進運動を展開(たつの市・佐用町)



播磨科学公園都市内の住宅地を周遊する自動走行カート



ボランティアグループによる通院等外出介助(太子町)



公共交通空白地域などで運行する予約型乗合タクシー「ほほえみ」(上郡町)



地域住民が地域の人のために運行するコミュニティバス「江川ふれあい号」(佐用町)

取組目標14のピクトグラムは、三上 晴奈さんの作品です。

15 健康・福祉が充実した地域をめざそう



取組目標 15

健康・福祉が充実した地域をめざそう

日頃から健康づくりの意識を高めるとともに、適切な医療・介護サービスが受けられる地域をめざそう

〈取組の方向性〉

誰もが健康で元気に活躍でき、安心して暮らし続けられる地域の実現に向け、一人ひとりが日頃から健康づくりの意識を高めよう。

また、関係機関とも連携した医師の確保や地域医療体制の充実に取組み、誰もが住み慣れた地域で適切な医療・介護サービスが受けられる地域をめざそう。



認知症の方が毎日笑って暮らせるまちづくりを目指し、子どもから高齢者、医師なども参加した認知症啓発（上郡町）



住み慣れたまちで元気に安心して暮らし続けられるよう、健康意識の向上と健康づくりを目的とした高齢者向け健康体操（相生市）



介助や見守りロボットなど様々な介護ロボットを展示する「西播磨総合リハビリテーションセンター」（たつの市）

〈主な県民意見〉

- ・産婦人科等医療体制の充実、住居選びの大きなポイントになる。
- ・老々介護等、要介護者のいる世帯の女性に負担がかかっている。介護は先が見えない不安があり、女性が働くことを委縮させている原因の一つ。女性が家庭に埋もれず、自分の力を社会に還元させるべく活躍できるには、介護など福祉の充実が必要。
- ・地域医療の充実強化のための医療従事者の確保が必要。
- ・地域において急性期から、回復期、慢性期、在宅医療、介護に至るまで切れ目のない医療・介護サービスを提供できる体制が望ましい。
- ・遠隔手術やオンライン診療の整備による過疎地の医療不安の緩和。ICT を活用した医療介護の連携システムの構築。
- ・医療が容易にできる環境づくり。先進技術を駆使した医療体制の充実、働き方の充実等、利便性と安全性が向上し先進技術により地域の不安が解消されてほしい。

〈取組目標を実現するための県民による取組例（県民意見より）〉

個人で出来ること

- ・元気高齢者も地域の介護支援を担う。
- ・日頃から高齢者と関わりを持ち、認知症の早期発見、治療につなげる。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作ること

- ・医療機関の適切な利用を啓発する。
- ・医療機関や福祉・介護施設の相互連携により、一人ひとりのニーズに対応した医療・介護サービスを充実させる。
- ・医療機関や福祉・介護施設と地域住民との相互交流を促進させる。
- ・在宅医療を地域ぐるみで支える環境をつくる。
- ・在宅での人とのふれあいを重視した終末期の環境づくりに取り組む。
- ・健康づくり教室を実施する。



関西福祉大学が地元中学生に実施する車椅子やガイドヘルプ体験などの福祉体験学習（赤穂市）



陽子線と重粒子線の二種類の粒子線治療ができる世界有数の先進医療施設「県立粒子線医療センター」（たつの市）

取組目標15のピクトグラムは、松下 愛花さんの作品です。

16 防災力を高めよう



取組目標 16

防災力を高めよう

災害に強い安全安心な地域をつくろう

〈取組の方向性〉

地震、津波、豪雨等の自然災害に強い社会基盤を整備するとともに、災害に強い森づくりを進めよう。

また、自宅での災害への備えや住んでいる地域の災害危険度の認識、防災訓練や防災学習への積極的な参加など、日頃から一人ひとりが防災についての高い意識を持とう。

さらに、自主防災組織の強化や災害弱者を地域で支え合う体制づくりなど、共助による地域防災力を高め、行政とも連携した災害に強い安全安心な地域をつくろう。



地域の小学校で実施した平成21年台風9号災害を学ぶ「防災まち歩き」(佐用町)



住民一人ひとりが防災意識を高めるための自治会主催による防災訓練の様子(相生市)



自治会主催の防災避難訓練で避難場所へ避難する地域住民(赤穂市)

〈主な県民意見〉

- ・高潮対策について、沿岸の防潮堤を一度に上げることは困難なため、高潮が発生すると高いところに逃げるといった危機意識を個人が持つように、もっと啓発していく必要がある。
- ・企業の事業継続の観点からも高潮対策は急務で、高潮に強いまちづくりを進めていく必要がある。
- ・共助による地域防災力の強化を図る。
- ・災害に強いインフラ整備とともに、事前に備える体制づくりや個人の危機意識を向上させる取組み。
- ・自然災害が増えている中で、特に防災に関する体制づくりが必要であり、企業においては同時にBCP^(※)対策が必要。
※ BCP(事業継続計画):企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合に事業資産の損害を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧が可能となるように平常時の行動や緊急時の対応を定めた計画。
- ・災害に強い森づくりを進める取組みが必要である。

〈取組目標を実現するための県民による取組例(県民意見より)〉

個人で出来ること

- ・家族で防災意識を共有しておく。
- ・家具の固定や非常持ち出し袋の常備など個人でできる災害への備えを進める。

地域や団体・事業者など周りのみんなで作れること

- ・自主防災組織の活動を充実させる。
- ・いざというときに必要な地域・人の情報を把握しておく。
- ・高齢者・障がい者などの災害弱者への情報提供や避難支援を行う。
- ・地域で自主的な防災訓練やワークショップを実施する。
- ・地域ぐるみで地域の人を守る集落の防災計画や防災ハンドブックを作る。
- ・次代の防災活動を担う若者の防災意識を醸成する。



地域住民による自主防災マップの作成
(宍粟市)



「シェイクアウト訓練」で地震から身を守るための安全確保行動をとる保育園児(太子町)

取組目標16のピクトグラムは、二宮 結里さんの作品です。

(参考) 現行ビジョンがめざす将来像の実現状況

「現行西播磨地域ビジョン」がめざす4つの将来像の実現状況

1 把握の方法

現行西播磨地域ビジョン(以下、「地域ビジョン」という。)がめざす4つの将来像の取組方向と関連する指標を設定し、地域ビジョンの実現状況を把握

2 指標

現行兵庫長期ビジョンが描く社会像の評価指標である「兵庫のゆたかさ指標 県民意識調査」項目のうち、地域ビジョンの4つの将来像の実現状況の把握にふさわしい40項目と、西播磨地域が独自に設定した「西播磨地域版調査」9項目の合計49項目

*県民意識調査:20歳以上の県内居住者5,000人を対象に毎年実施(令和3年度からは対象者を18歳以上に引き下げ)

3 指標の評価

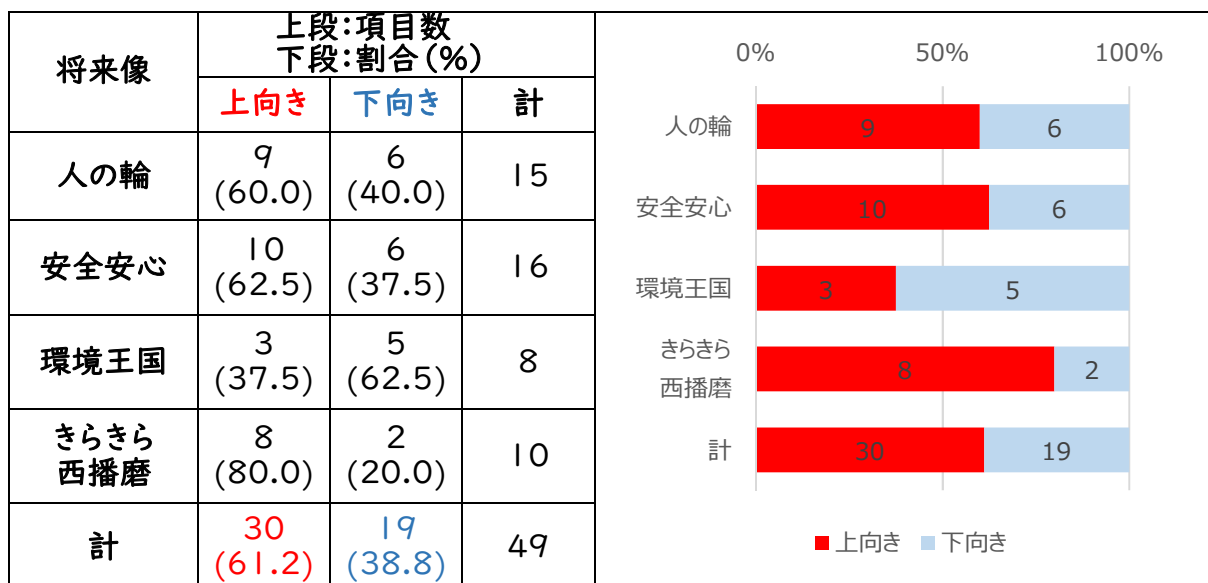
平成23年(地域ビジョン策定年)と令和3年の数値を比較し、将来像ごとに上向き項目と下向き項目の数等により、その実現状況を把握(平成23年以降に設定された指標については、設定年と令和3年の数値を比較)

4 全体の評価

全体の49項目の内、30項目(61.2%)が平成23年に比べて上向きの数値を示している。

各将来像で見ると、「人の輪」「安全安心」「きらきら西播磨」の3つの将来像において、上向きの項目数が下向きの項目数を上回っている。特に災害に強いまちづくりや治安の良さなど「安全で安心して暮らせる地域」への取組みが進んでいる。

一方、将来像「環境王国」の指標において、下向きの項目数が過半数を超えており、環境問題に関心を持つ人の割合は高いものの、環境保全への取組みは減少傾向である。



5 将来像別の評価

(1) 将来像1「人の輪社会」

「子育てのしやすさ」や「心の豊かさを育む教育や活動」など、子どもに関する項目が向上しており、子どもが健やかに育つ社会づくりが進んでいる。また、「住んでいる地域にこれからも住み続けたい人」や「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人」の割合も上昇し、ふるさと意識の醸成がうかがえる。さらに、「異なる世代との交流」も高い水準となっており、豊かな人間関係が育まれていることが西播磨地域の特徴の一つである。

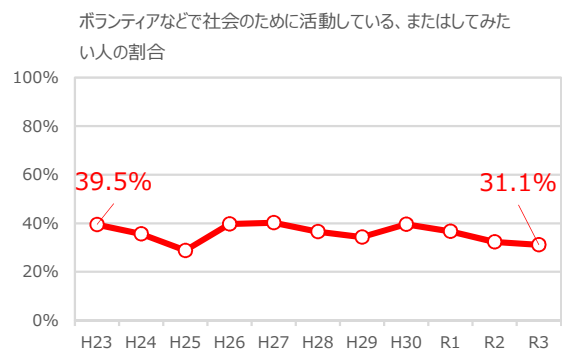
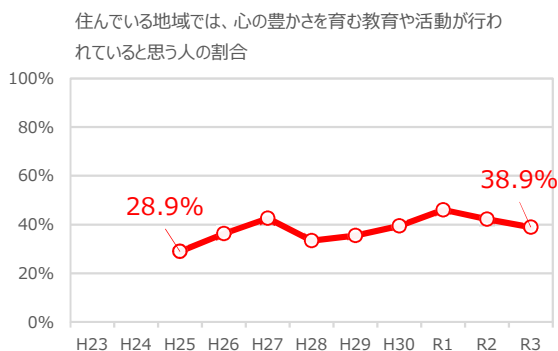
一方、ボランティアへの意欲に関する項目は低下しており、積極的な社会貢献活動への参画が課題である。

平成23年より上昇している主な項目

- ・住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合 [36.8%→52.2%]
- ・住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合 [28.9%→38.9%]
- ・住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合 [69.1%→75.1%]
- ・住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合 [54.6%→59.9%]
- ・住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがある人の割合 [50.0%→60.1%]

平成23年より低下している主な項目

- ・ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい人の割合 [39.5%→31.1%]
- ・住んでいる地域では、子どもたちが積極的に野外で遊んでいると思う人の割合 [37.6%→35.4%]



(2) 将来像2「安全安心社会」

「治安が良く安心して暮らせると思う人」や「家庭で災害に対する自主的な備えをしている人」の割合は大きく向上している。また「将来の生活に不安を感じる人」の割合も大きく低下しており、安全で安心して暮らせる地域づくりが進んでいる。

一方、買い物や通院、公共交通の利便性など、移動に関する項目は低下傾向にある。

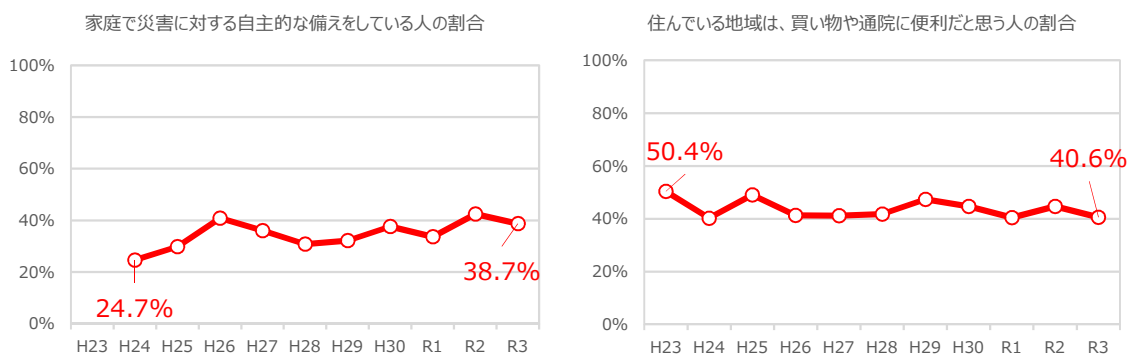
平成23年より上昇している主な項目

- ・住んでいる地域は治安が良く安心して暮らせると思う人の割合 [52.5%→84.7%]

- ・家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合 [24.7%→38.7%]
- ・全体として、将来の生活に不安を感じる人の割合 [77.8%→59.0%]

平成23年より低下している主な項目

- ・住んでいる地域は、買い物や通院に便利だと思う人の割合 [50.4%→40.6%]



(3) 将来像3「環境王国」

「地球温暖化などの環境問題に関心を持っている人」の割合は大きく上昇しており、関心の高さがうかがえる。また、「地元や県内でとれた農林水産物を買っている人」の割合も向上しており、地産地消の定着がうかがえる。

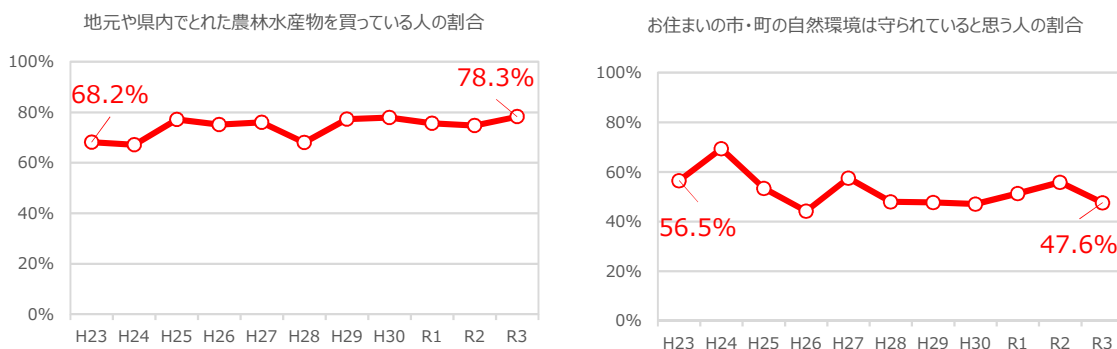
一方で、「地域の自然環境は守られていると思う人」や「環境に配慮した製品を選んでいる人」の割合は低下しており、環境保全の取り組みが課題である。

平成23年より上昇している主な項目

- ・地球温暖化、ゴミの増大、大気汚染などの環境問題に関心を持っている人の割合 [17.7%→68.1%]
- ・地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合 [68.2%→78.3%]

平成23年より低下している主な項目

- ・お住まいの市・町の自然環境は守られていると思う人の割合 [56.5%→47.6%]
- ・製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいる人の割合 [59.6%→57.3%]



(4) 将来像4「きらきら西播磨」

「住んでいる地域のことに関心がある人」の割合は大きく向上している。外国人との交流の機会や地元企業の知名度などに関する項目も高い水準ではないものの、大きく向上しており、さらなる交流やにぎわいの拡大につながっていくことが期待できる。

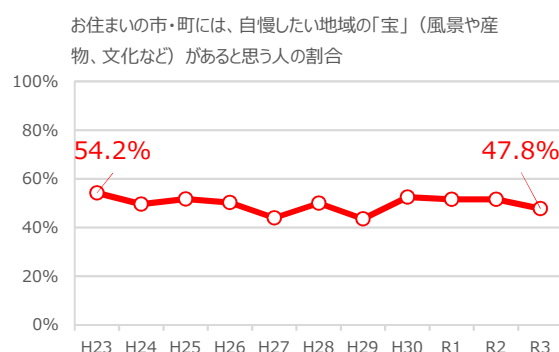
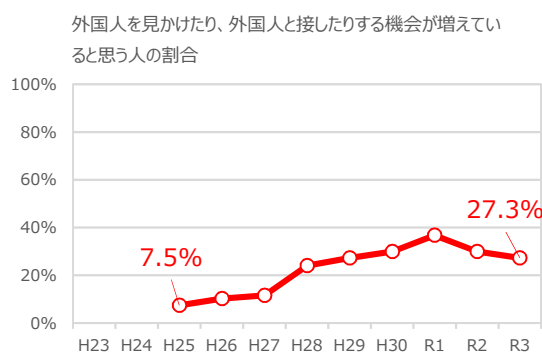
一方で、「自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人」の割合は低下しており、地域資源の認知や活用が課題である。

平成23年より上昇している主な項目

- ・住んでいる地域のことに関心がある人の割合 [43.7%→71.1%]
- ・外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合 [7.5%→27.3%]
- ・お住まいの市・町には、優れた製品・技術・ブランド力をもった企業があることを知っている人の割合 [19.0%→38.7%]


平成23年より低下している主な項目

- ・お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合 [54.2%→47.8%]



【県民意識調査の結果（H23～R3）】

将来像	指標	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3-H23	
1 人の輪 社会	住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがある人の割合	50.0%	46.9%	62.3%	61.8%	59.4%	58.8%	59.4%	63.9%	64.3%	61.3%	60.1%	10.1%	↑
	ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい人の割合	39.5%	35.6%	28.8%	39.7%	40.2%	36.5%	34.2%	39.6%	36.6%	32.2%	31.1%	-8.4%	↓
	自分のしごとにやりがいを感じる人の割合	58.8%	57.5%	58.4%	58.6%	63.5%	57.2%	58.6%	61.0%	63.0%	55.5%	61.3%	2.5%	↑
	しごとと自分の生活の両立ができていない人の割合	53.6%	51.9%	52.9%	69.0%	64.8%	62.0%	64.4%	58.0%	67.5%	64.4%	68.9%	15.3%	↑
	住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	54.6%	53.8%	57.0%	59.3%	64.1%	69.9%	66.1%	60.1%	61.3%	61.4%	59.9%	5.3%	↑
	住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	69.1%	65.0%	74.4%	69.4%	72.2%	75.1%	76.3%	68.8%	75.5%	67.8%	75.1%	6.0%	↑
	住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合	36.8%	39.7%	58.5%	40.5%	49.3%	46.0%	51.8%	47.8%	50.8%	54.7%	52.2%	15.4%	↑
	住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると思う人の割合	69.9%	65.2%	64.3%	58.8%	65.5%	57.9%	67.1%	65.2%	69.3%	68.9%	62.2%	-7.6%	↓
	住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合	-	-	28.9%	36.2%	42.6%	33.3%	35.4%	39.5%	46.0%	42.1%	38.9%	9.9%	↑
	商売、事業を新たに始めやすいと思う人の割合	11.3%	19.4%	15.0%	10.0%	10.8%	4.6%	4.5%	5.3%	8.7%	9.1%	7.5%	-3.8%	↓
	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると思う人の割合	6.5%	6.8%	7.3%	5.8%	6.7%	6.0%	6.7%	6.6%	9.5%	9.1%	8.7%	2.2%	↑
	住んでいる地域では、お祭りや地域活動などの行事に子どもたちが参加していると思う人の割合	-	-	82.7%	78.2%	81.9%	75.5%	81.5%	76.5%	75.6%	77.6%	78.9%	-3.8%	↓
	住んでいる地域では、子どもたちが積極的に野外で遊んでいると思う人の割合	-	-	37.6%	37.5%	36.6%	35.7%	36.3%	30.1%	36.3%	40.1%	35.4%	-2.2%	↓
	地域づくり活動団体等が日頃の活動を発表する「出る杭大会」を知っている人の割合	-	-	31.9%	33.6%	32.6%	28.0%	33.0%	35.0%	34.7%	26.6%	27.0%	-4.9%	↓
	ホームページ、ブログ、フェイスブックなどインターネットを利用して、住んでいる地域に関する情報について、収集や発信をしている人の割合	-	-	8.0%	11.1%	12.0%	9.7%	8.8%	7.7%	12.8%	18.6%	12.7%	4.7%	↑
2 安全安心 社会	頼りになる知り合いが近所にいる人の割合	62.4%	62.1%	66.5%	71.9%	66.8%	58.6%	72.0%	63.0%	70.4%	69.0%	68.0%	5.6%	↑
	心身ともに健康であると感じる人の割合	59.3%	63.6%	71.2%	58.9%	65.9%	60.8%	57.6%	65.6%	65.1%	68.6%	64.0%	4.8%	↑
	かかりつけの医者がある人の割合	68.0%	68.1%	72.5%	71.0%	74.8%	67.6%	76.3%	68.6%	73.6%	79.2%	71.1%	3.1%	↑
	住んでいる地域で、災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合	-	-	38.8%	47.5%	42.0%	41.3%	34.7%	49.3%	44.5%	45.1%	40.1%	1.3%	↑
	災害時の避難所と避難方法を知っている人の割合	77.6%	79.3%	75.6%	71.3%	65.3%	71.4%	64.0%	74.4%	75.7%	79.1%	80.2%	2.7%	↑
	家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合	-	24.7%	29.9%	40.8%	36.0%	30.8%	32.1%	37.6%	33.7%	42.4%	38.7%	14.1%	↑
	全体として、将来の生活に不安を感じる人の割合	77.8%	79.3%	73.5%	64.4%	61.4%	65.6%	69.6%	65.0%	61.9%	62.9%	59.0%	-18.8%	↑
	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合	52.5%	50.2%	83.0%	81.1%	81.2%	82.1%	82.1%	83.0%	86.9%	81.6%	84.7%	32.2%	↑
	住んでいる地域では、住民による登下校時の見守り、夜間パトロールや街灯整備などの安全安心を守る取組が行われていると思う人の割合	71.8%	70.4%	73.0%	74.8%	74.4%	73.1%	67.7%	65.3%	73.5%	71.3%	73.9%	2.1%	↑
	住んでいる地域は、高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合	39.8%	35.8%	48.7%	43.2%	44.8%	40.6%	46.6%	43.3%	42.3%	53.7%	45.0%	5.1%	↑
	住んでいる地域は、障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合	39.8%	35.8%	27.1%	22.5%	25.1%	22.9%	26.9%	29.0%	24.4%	32.2%	24.5%	-15.3%	↓
	住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合	49.4%	51.3%	30.6%	39.6%	36.4%	33.0%	33.5%	36.2%	44.6%	41.6%	41.5%	-7.9%	↓
	住んでいる地域は、買い物や通院に便利だと思う人の割合	50.4%	40.3%	49.0%	41.3%	41.2%	41.7%	47.3%	44.6%	40.5%	44.7%	40.6%	-9.8%	↓
	お住まいの市・町の公共交通は便利だと思う人の割合	21.6%	18.9%	20.0%	20.9%	23.0%	22.6%	16.1%	20.4%	20.5%	20.5%	17.8%	-3.8%	↓
	地元や県内でとれた農林水産物は安心だと思う人の割合	-	-	86.2%	78.7%	78.7%	73.0%	79.1%	77.0%	80.3%	75.9%	77.1%	-9.1%	↓
住んでいる地域では、自動車、自転車などの交通マナーが良いと思う人の割合	-	-	39.0%	34.6%	31.9%	33.2%	34.7%	29.9%	39.1%	50.2%	37.4%	-1.6%	↓	
3 環境王国	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合	68.2%	67.1%	72.2%	75.1%	76.0%	68.0%	77.3%	77.9%	75.6%	74.7%	78.3%	10.1%	↑
	太陽光など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う人の割合	35.3%	37.1%	48.0%	27.8%	27.6%	21.0%	20.5%	18.4%	19.3%	20.3%	-15.0%	↓	
	ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる人の割合	92.2%	89.0%	95.4%	90.5%	88.0%	89.4%	92.0%	90.3%	88.6%	92.3%	90.0%	-2.2%	↓
	日頃から節電に取り組んでいる人の割合	85.3%	88.1%	76.6%	79.8%	76.4%	72.4%	78.2%	76.2%	77.6%	77.5%	70.2%	-15.1%	↓
	製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいる人の割合	59.6%	58.7%	59.4%	60.5%	59.4%	57.5%	57.3%	60.4%	51.4%	60.8%	57.3%	-2.3%	↓
	住んでいる地域のまちなみはきれいだと思う人の割合	-	-	53.3%	47.1%	43.8%	53.6%	55.0%	55.3%	59.0%	59.3%	54.6%	1.4%	↑
	お住まいの市・町の自然環境は守られていると思う人の割合	56.5%	69.3%	53.3%	44.2%	57.5%	48.0%	47.7%	47.1%	51.4%	55.8%	47.6%	-8.9%	↓
	地球温暖化、ゴミの増大、大気汚染などの環境問題に関心を持っている人の割合	-	-	17.7%	18.4%	75.9%	73.1%	73.1%	68.3%	71.1%	74.9%	68.1%	50.4%	↑
	4 きらきら 西播磨	住んでいる地域のことに関心がある人の割合	43.7%	43.1%	70.1%	67.1%	69.8%	67.0%	70.4%	70.5%	71.4%	68.0%	71.1%	27.5%
外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合		-	-	7.5%	10.2%	11.6%	24.1%	27.2%	29.9%	36.8%	29.9%	27.3%	19.8%	↑
お住まいの市・町には、優れた製品・技術・ブランド力を持った企業があることを知っている人の割合		-	-	19.0%	35.1%	35.4%	37.1%	39.9%	38.9%	43.8%	41.0%	38.7%	19.7%	↑
お住まいの市・町の企業には活気が感じられると思う人の割合		-	-	14.8%	12.2%	14.8%	14.0%	17.0%	14.2%	20.0%	16.0%	19.8%	5.0%	↑
お住まいの市・町では、観光などの訪問客が増えていると思う人の割合		14.3%	11.9%	15.5%	23.7%	17.7%	19.5%	20.3%	20.8%	20.2%	13.2%	15.8%	1.5%	↑
お住まいの市・町は、県内のどこへでも便利に移動できると思う人の割合		28.5%	27.2%	37.4%	26.8%	29.6%	34.4%	31.4%	33.2%	36.0%	36.9%	34.8%	6.3%	↑
お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合		54.2%	49.6%	51.8%	50.2%	44.0%	50.0%	43.6%	52.4%	51.6%	51.6%	47.8%	-6.4%	↓
大型放射光施設「Spring-8」の見学やイベントなどで播磨科学公園都市によく行く人の割合		-	-	-	13.8%	19.4%	15.5%	16.2%	18.6%	15.7%	12.6%	16.6%	2.8%	↑
播磨科学公園都市に住んでみたいと思う人の割合		-	-	-	3.7%	4.2%	1.9%	1.9%	2.7%	4.1%	2.2%	4.4%	0.7%	↑
住んでいる地域の企業は、地域に貢献していると思う人の割合		-	-	-	39.2%	32.1%	35.0%	30.2%	29.0%	33.6%	37.7%	33.8%	-5.4%	↓



西播磨地域ビジョン2050

～光と水と緑でつなぐ 元気西播磨～

策定 2022年(令和4年)3月

(事務局) 兵庫県西播磨県民局県民交流室県民活動支援課
〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25
電話:0791-58-2128 FAX:0791-58-0523

この冊子に使用しているピクトグラムは、兵庫県立龍野北高等学校
総合デザイン科の生徒(3年生)の作品です。

